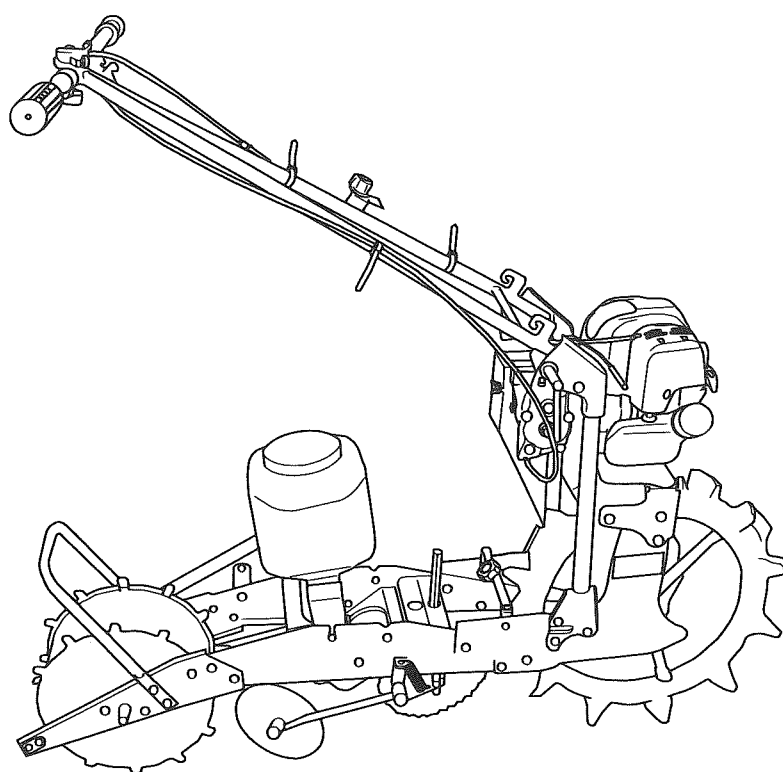


使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

みのる動力大粒播種機

PLE-112

取扱説明書




みのる産業株式会社

動力大粒播種機重要安全ポイント

1. 燃料を補給するときは、
火気厳禁します。
エンジンを停止し、冷却状態で行います。
2. エンジンを始動するときは、
走行クラッチレバーをロックします。
3. 動力大粒播種機を移動するときは、
スピードを落とし、路肩に注意します。
4. 動力大粒播種機を点検、調整するときは、
安全な場所で、必ずエンジンを止めます。
5. 補助者と共同作業を行うときは、
合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱して下さい。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を  を付けて説明しております。

よくお読みいただいて、必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに






- この度は、**動力大粒播種機**をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- この取扱説明書は、**動力大粒播種機**を使用する際に是非、守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、動力大粒播種機を適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。
- 動力大粒播種機**を貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を**動力大粒播種機**に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げいただいた、販売店、JA(農協)にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本機と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買い上げいただいた、販売店、JA(農協)にご相談ください。
- 取扱説明書の中の  **重要** 表示は、下記のように安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。
- 黒豆大豆用目皿の孔径は、φ14mmです。2Lサイズ以上の黒大豆を使用する場合は、販売店に相談し、目皿の孔径をドリル等で大きくしてご使用ください。ただし孔径は16mm以下でご使用ください。必要以上に大きい孔をあけて作業すると、Sサイズ(7mm以下)の黒大豆は2粒落下しますので混入には注意してください。**(PLE-112Bのみ)**
- 使用する種子は均一な黒大豆・大豆をご使用ください。これを守らないと目皿の孔を通過せず、欠粒を起こす恐れがあります。

表 示	重 要 度
 危 険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
 警 告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
 注 意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。
 重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。よく読んで商品の性能を最大限発揮してご使用ください。

目次

安全のポイント	1
安全な作業をするために	1
安全表示ラベルについて	8
保証とサービスについて	9
各部の名称と働き	10
各部の名称	10
レバー関係の取扱い	11
作業前の点検	13
給油・注油箇所の点検と補給	13
運転のしかた	17
エンジンの始動と停止のしかた	17
発進、停止のしかた	19
移動、運搬のしかた	20
作業のしかた	21
点検整備	23
定期的な点検整備	23
点検整備一覧表	23
エンジンオイルの交換	24
エアクリーナ(空気清浄器)の清掃	26
点火プラグの点検・清掃	26
燃料フィルタの清掃	27
燃料パイプの点検	27
各所ボルト、ナット、ビスの交換	27
各部の清掃	27
ガスケット、パッキンの交換	27
減速ミッションオイルの給油	28
走行クラッチワイヤーの点検	28
長期格納時の手入れ	29

不調時の処置	30
PLE112サービス資料	31
目皿の取替え方	31
ホッパーの高さ調節	31
残留種子の取出し	32
スプロケット(チェン)の取替え方	32
目皿一覧表	33
株間の調節	34
農作業を安全に行うために	35
諸 元	38
主要諸元	38
標準付属品	39
注文部品の紹介	40
施薬装置説明	41

安全のポイント

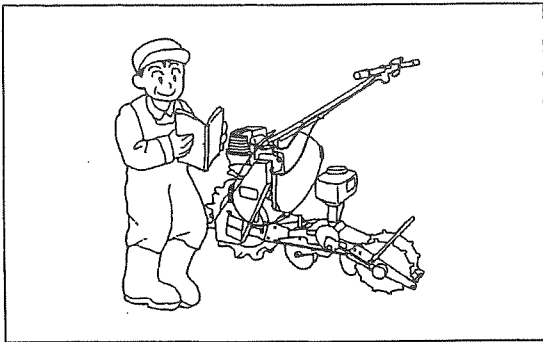
安全な作業をするために

本章では、**動力大粒播種機**を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事柄を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行ってください。

■ 運転者の条件

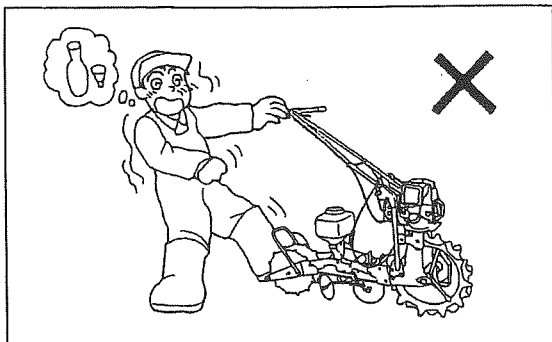
(1) はじめに

作業をする前に、この『取扱説明書』をよく読むことから始めてください。これが安全に快適に作業をするための第一歩です。



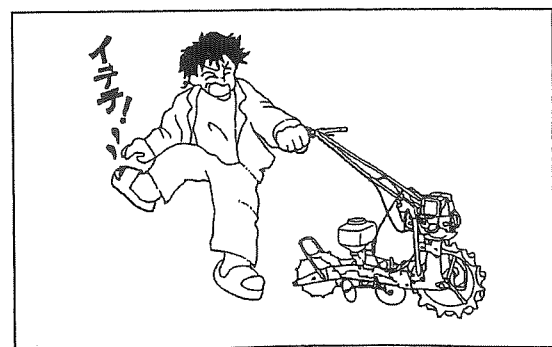
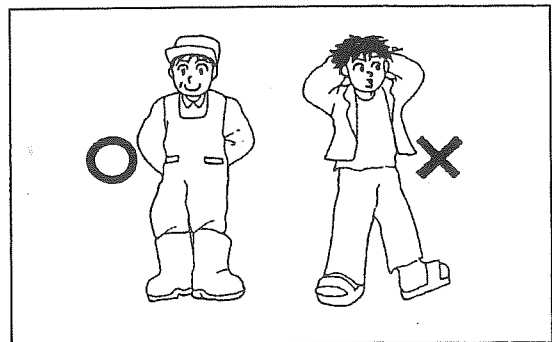
(2) 体調について

飲酒時や過労気味の時は、作業をしないでください。この様な時作業を行うと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業する時は、必ず心身とも健康な状態で行ってください。
妊娠している人、18才未満の人は運転しないでください。



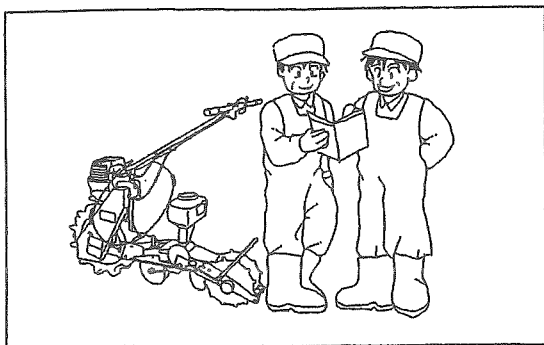
(3) 服装について

作業する時は、作業に合わせた服装をしてください。服装が悪いと、衣服が回転部等に巻き込まれたりして大変危険です。また、裸足での作業は絶対にしないでください。田植長靴か足袋で作業してください。守らなかった場合、足をケガする恐れがあり危険です。



(4) 人に動力大粒播種機を貸す時は

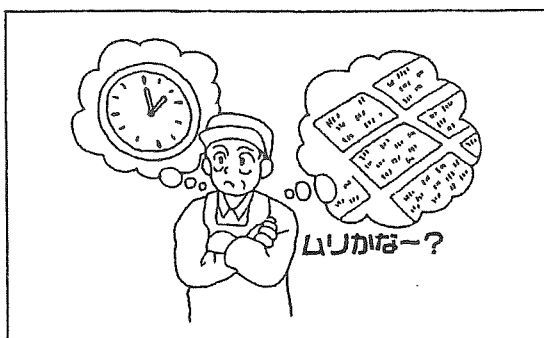
動力大粒播種機を貸す時は、取扱の方法をよく説明し、使用前に『取扱説明書』を熟読する様に指導してください。借りた人が動力大粒播種機の運転に不慣れな為、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



■作業を開始する前に

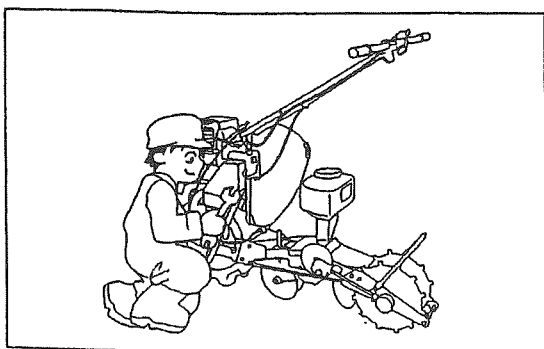
(1) 無理のない作業計画で

無理のない作業計画を立てましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。



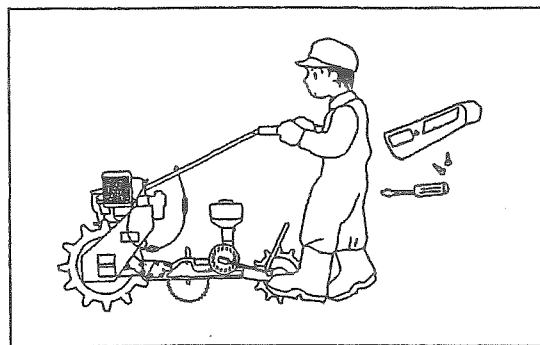
(2) 日常点検について

作業する前に、必要な点検、注油は必ず行ってください。特に走行クラッチ、軸受関係は忘れないでください。点検、注油を怠るとクラッチが切れなかったり、急に動いたりして、移動中や作業中の思わぬ事故につながります。



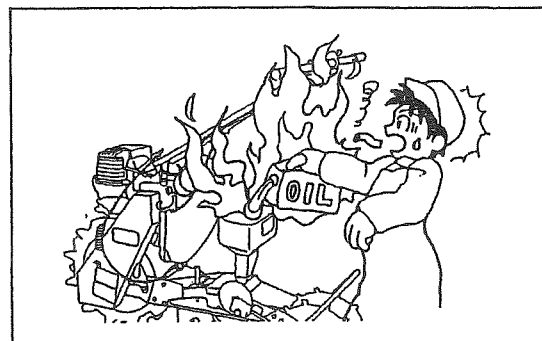
(3) 安全カバー類の装着確認

動力大粒播種機を運転する前に、安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外れたまま作業を行うと、危険な部分が露出して大変危険です。



(4) 燃料補給時は火気厳禁

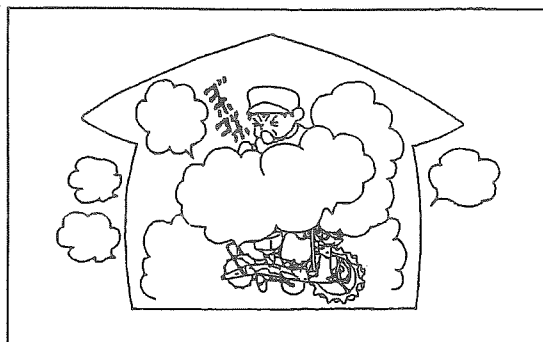
燃料を補給する際は、エンジンを必ず停止し、くわえ煙草などは絶対にしないでください。動力大粒播種機の周りに火の気を近づけず、火気厳禁で行ってください。守らなかった場合、火災の原因になります。



■エンジンの始動と発進

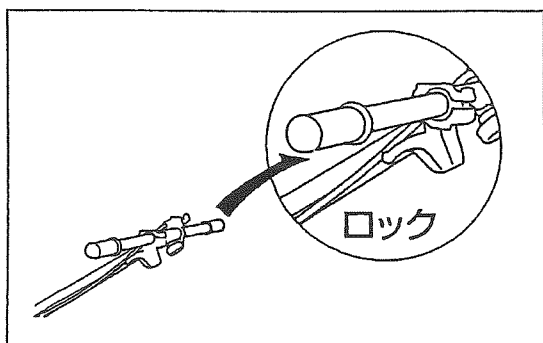
(1) 室内では十分に換気を

室内でエンジンを運転する時は、窓や戸を開けて換気を十分にしてください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

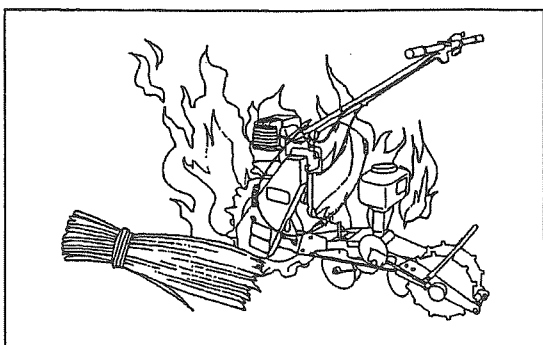


(2) エンジンの始動は、周囲を確認してから

エンジンを始動する時は、走行クラッチレバーを必ずロックし、周囲の安全を確認してから行ってください。確認を怠ると急発進したとき大変危険です。

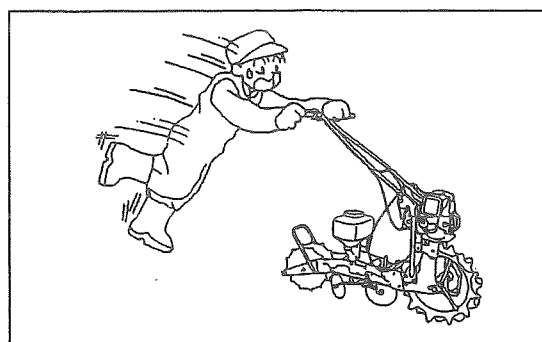


エンジンを始動する場合は、エンジンやマフラー等の上や周りに、ゴミや燃え易い物が無いことを十分確認してください。確認を怠ると、火災の原因になります。



(3) 急発進は危険

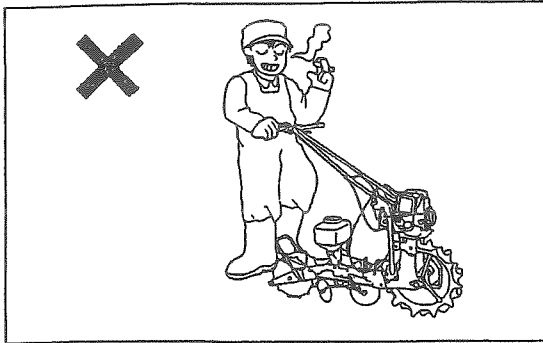
発進する時は、周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



■移動するときの注意

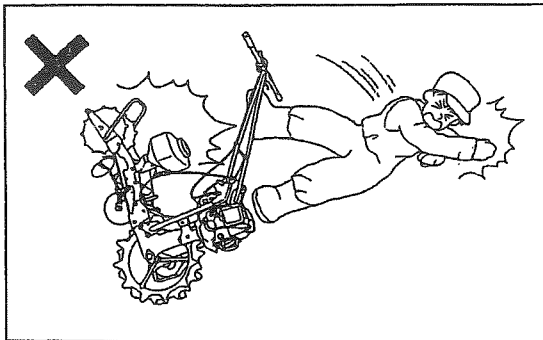
(1) 正しい運転姿勢で

ハンドルや走行クラッチレバーは正しく操作し脇見運転や、片手運転はしないでください。接触事故や、転落事故の原因になります。



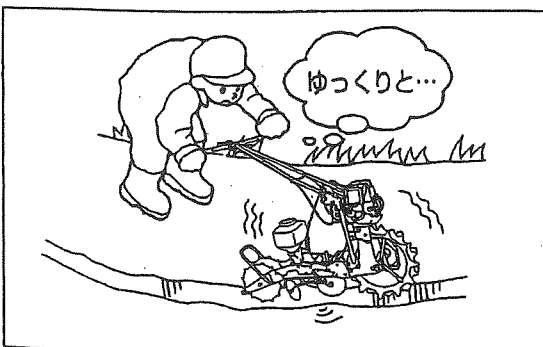
(2) ゆっくり移動

傾斜地では急な旋回はしないでください。急旋回すると、転落事故の原因となり大変危険です。



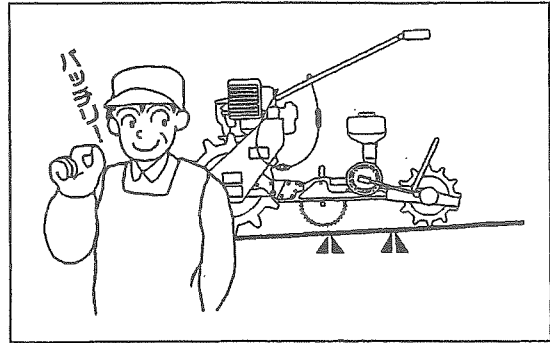
(3) 路肩に注意

側溝のある場所や、両側が傾斜している場所を通過する時は、速度を落して十分注意してください。転落事故の危険性があります。



(4) 動力大粒播種機から離れる時は

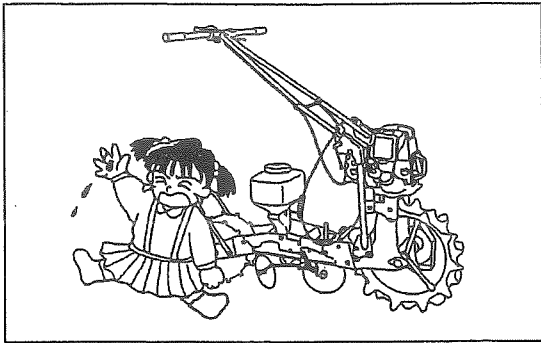
動力大粒播種機から離れる時は、エンジンを停止してください。止める場所は地面の硬い平坦な所を選んでください。柔らかいと自然に転倒することがあります。



■作業中の注意

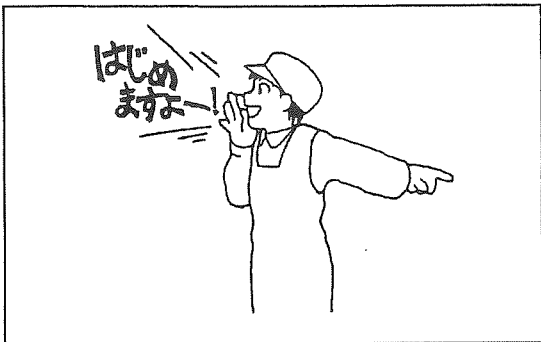
(1) 作業中は周りの人に注意(特に子供)

作業中は、作業者以外の方は**動力大粒播種機**に近づかないでください。**動力大粒播種機**との接触などで傷害事故を引き起こす恐れがあります。



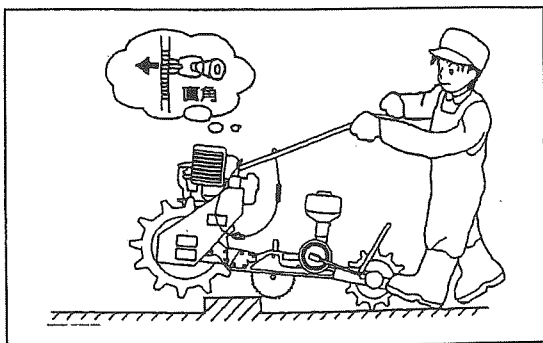
(2) 作業開始時は、声かけ合って

作業を開始する時は、周囲の安全を確認し、特に補助者と共に作業する時は、声をかけ合ってください。怠ると傷害事故の原因になり大変危険です。



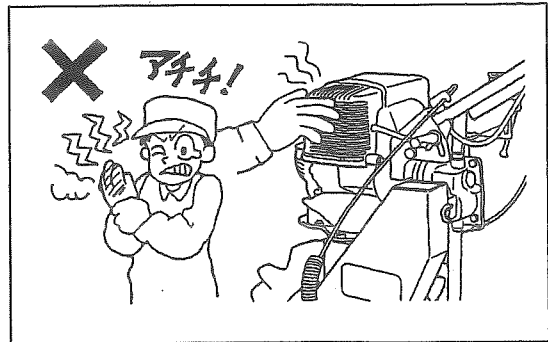
(3) あぜ越え時の注意

あぜを横断する時は、エンジンを低速にして、あぜと直角にゆっくり走行してください。斜めになると、スリップや横転の原因になり大変危険です。



(4) 回転部、過熱部に手を触れないこと

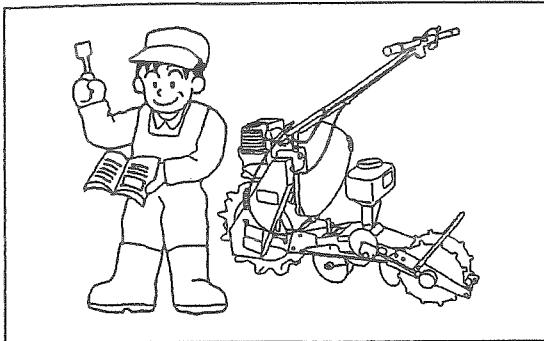
作業中は、車輪やチェーンの回転部、エンジン、マフラー等の過熱部には手を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



■点検整備時の注意

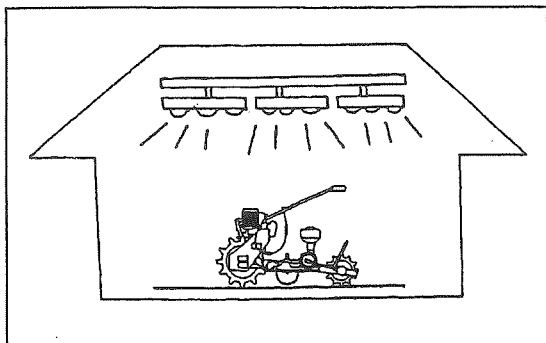
(1) 定期点検について

取扱説明書に従って定期点検を実施してください。これは動力大粒播種機を長持ちさせると共に、安全で効率的な作業が行える第一歩です。



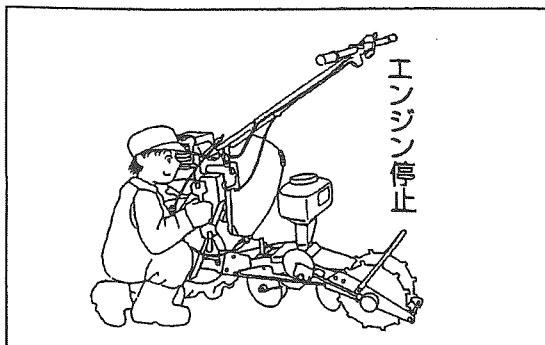
(2) 点検、整備は明るく広い所で

点検・整備は明るく広い場所で行ってください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



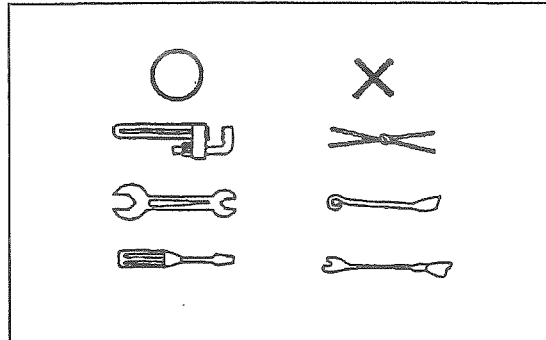
(3) 点検、整備はエンジンを止めて

点検・整備を行う時は、必ずエンジンを停止してから行ってください。これを怠ると回転部などに手や衣服が巻き込まれて大変危険です。



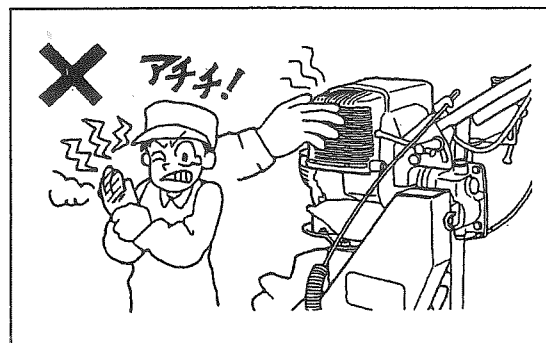
(4) 点検・整備は、適正な工具で

点検・整備を行う時は、適正な工具を正しく使用してください。間に合せの工具で行うと、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



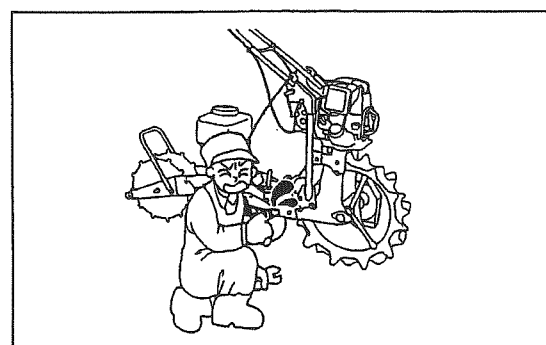
(5) 過熱部分は冷めてから

エンジンを止めてすぐには、点検・整備をしないでください。エンジン・マフラー等の過熱部分が完全に冷めてから行ってください。怠ると火傷などの原因になり危険です。



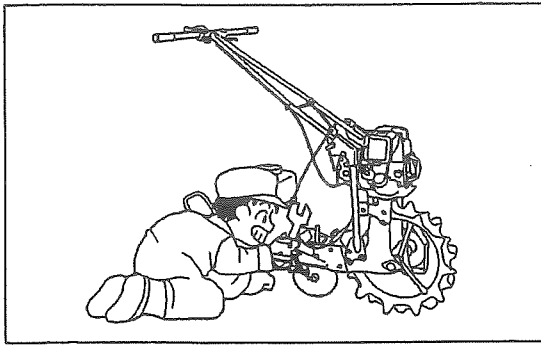
(6) 回転部分には注意して

点検・整備を行う場合は、車輪やチェーンなどの回転部分に、手や指を挟まれない様に、特に注意してください。これを怠ると傷害事故の原因になり危険です。



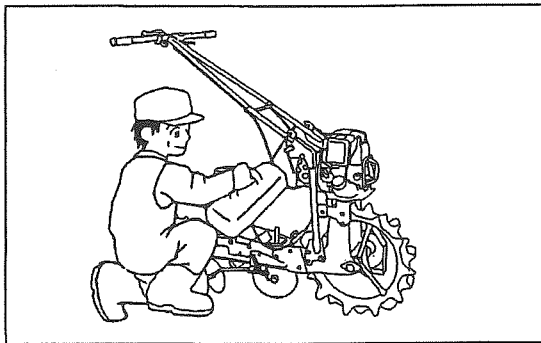
(7) 動力大粒播種機の改造は厳禁

指定以外のアタッチメントの取付や改造は、絶対にしないでください。動力大粒播種機の故障の原因になるばかりでなく、思わぬ事故の原因になり大変危険です。



(8) カバー類は元通りに

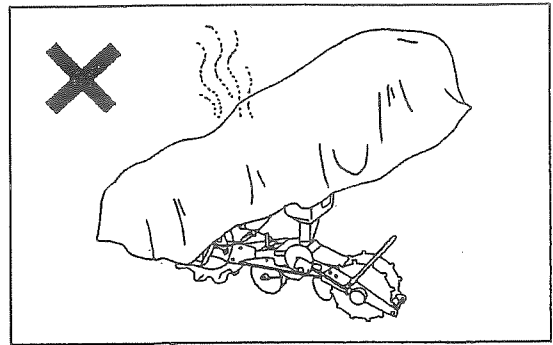
点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取付けてください。外したままで使用しますと、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となり大変危険です。



■格納、保管時の注意

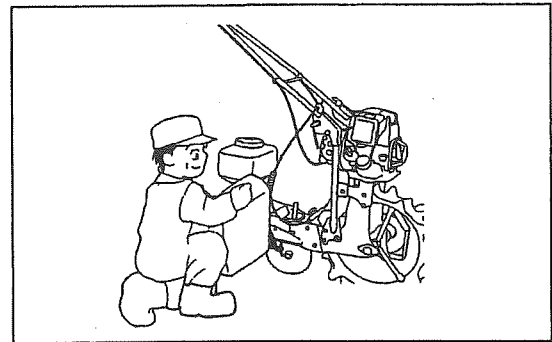
(1) 燃料の抜き取り

長期格納する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取ってください。燃料が変質しエンジンの故障の原因になるばかりでなく、引火などで火災の原因になり大変危険です。



(2) 燃料の抜き取り

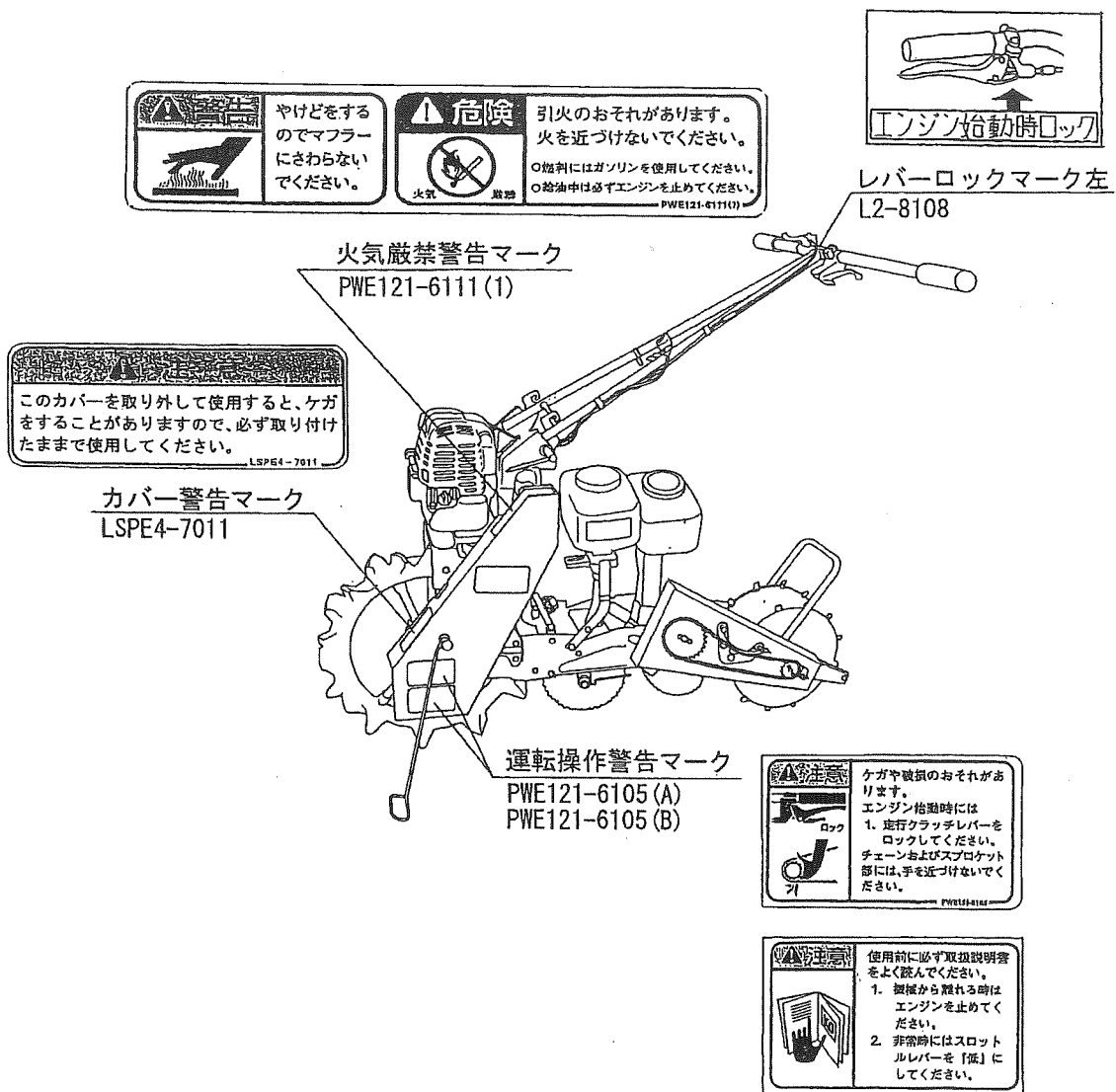
長期格納する場合は、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取っておいてください。燃料が変質しエンジンの故障の原因になるばかりでなく、引火などで火災の原因になり大変危険です。



安全表示ラベルについて

- 本機には、安全に作業をしていただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んでこれらの注意に従ってください。
- 安全表示ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。
- 汚れた場合は、きれいに拭き取り、いつでも読めるようにしてください。
- 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルもお買い上げいただいた販売店等に注文してください。

安全表示ラベル添付位置



保証とサービスについて

■ サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店・JA(農協)にお気軽にご相談ください。

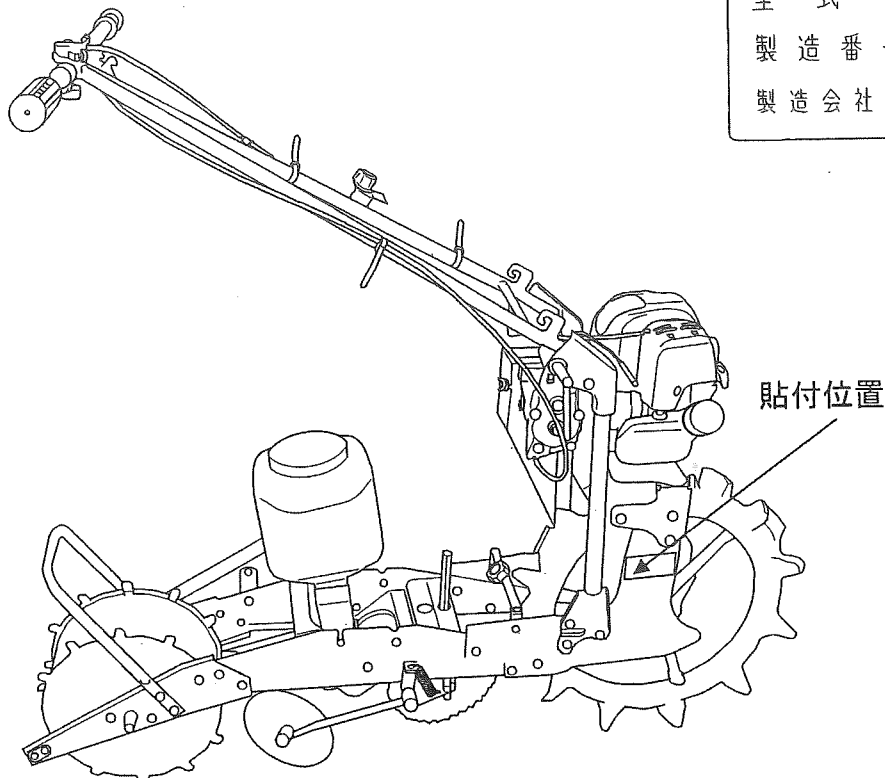
その際、

- (1) 販売型式
- (2) 製造番号

を併せてご連絡ください。

(型式マーク)

農機具の種類	播種機
型式名	PLE112
製造番号	A※※※※
製造会社名	みのる産業株式会社



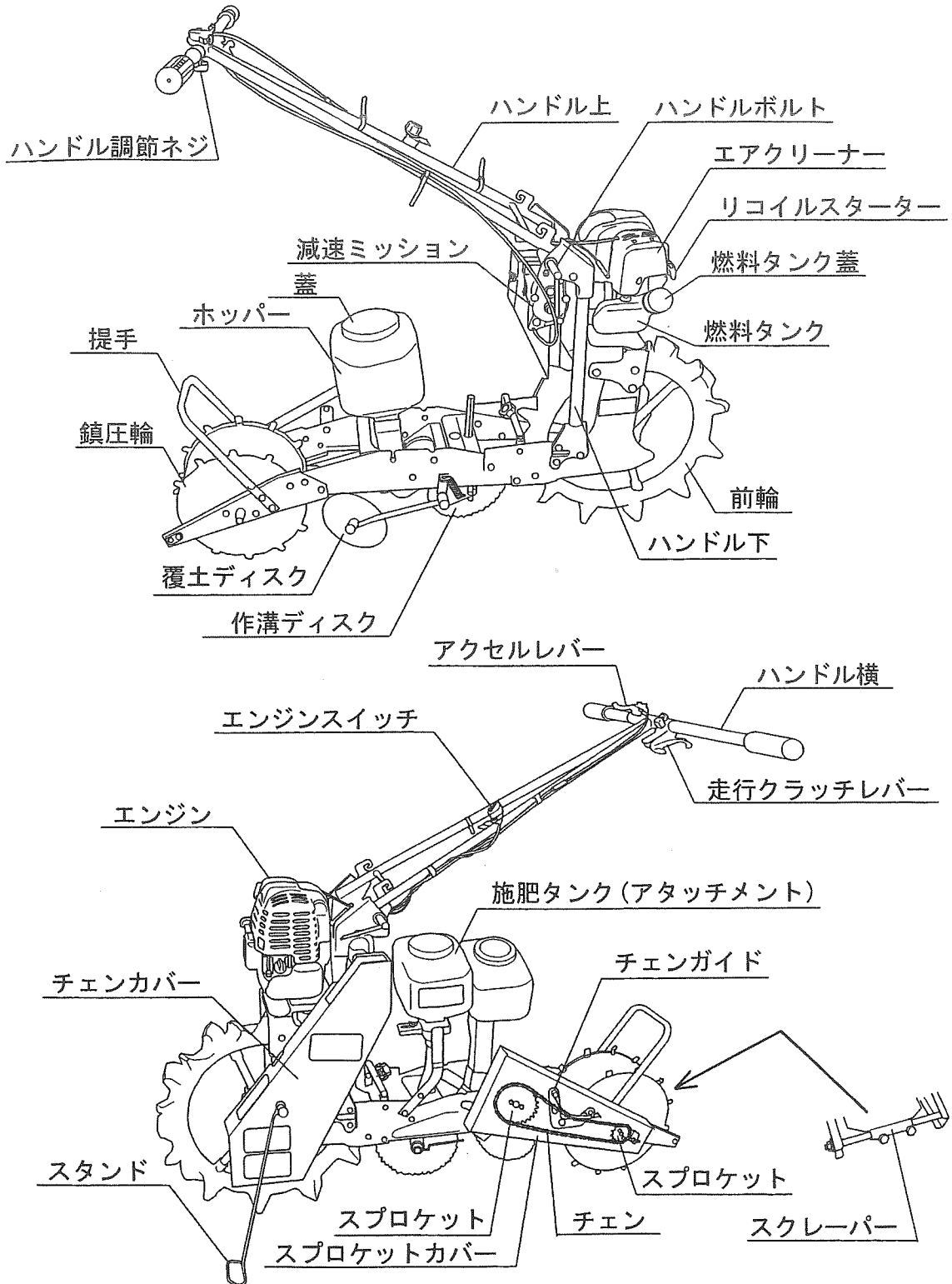
■ 補修用部品供給年限について

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等について、ご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

各部の名称と働き

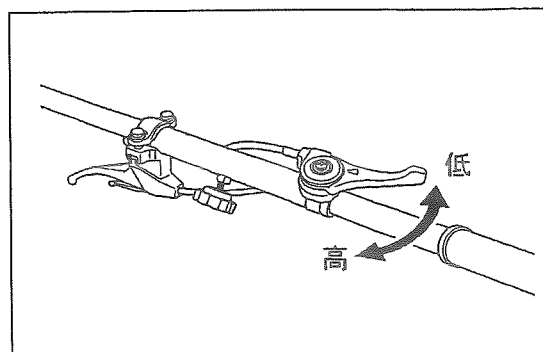
各部の名称



レバー関係の取扱い

■アクセルレバー

- 低** ……動力大粒播種機が止まります。
(クラッチが切れます)
- 高** ……動力大粒播種機が動きます。

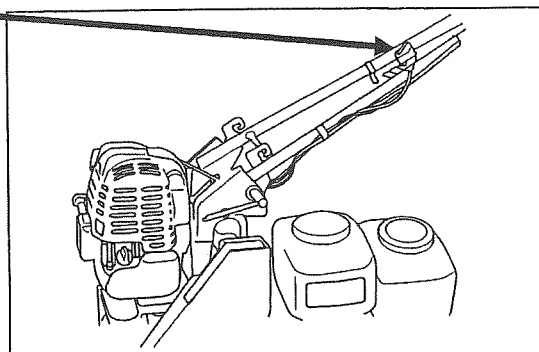


! 注意

この動力大粒播種機は遠心クラッチ式のため、非常時には、アクセルレバーを『低』にしてください。走行クラッチレバー等での操作は、傷害事故を引き起こす恐れがあり危険です。

■エンジンスイッチ

- ON** ……リコイルスターターノブを引けばエンジンが始動します。
- OFF** ……エンジンが停止します。



! 注意

動力大粒播種機から離れる時はエンジンを止めてください。怠ると、動力大粒播種機が自然に動きだして大変危険です。

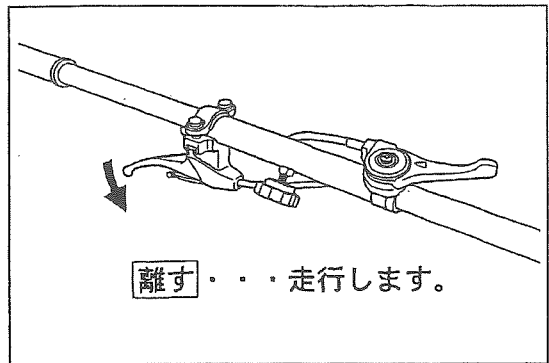
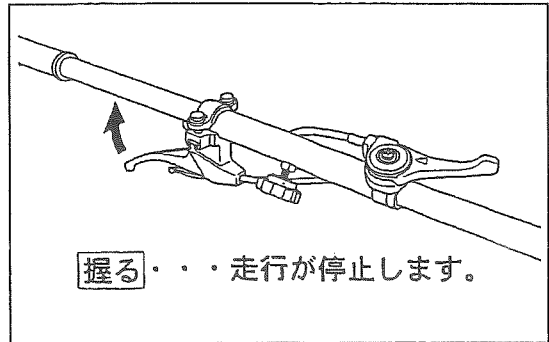
■ 走行クラッチレバー

握る ……走行が停止します。

離す ……走行します。

⚠ 注意

エンジンを始動する時は、走行クラッチレバーをストッパーで必ずロックしてください。
これを守らないと、動力大粒播種機が急発進して傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



作業前の点検

故障を未然に防ぐには、動力大粒播種機の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行ってください。



警告

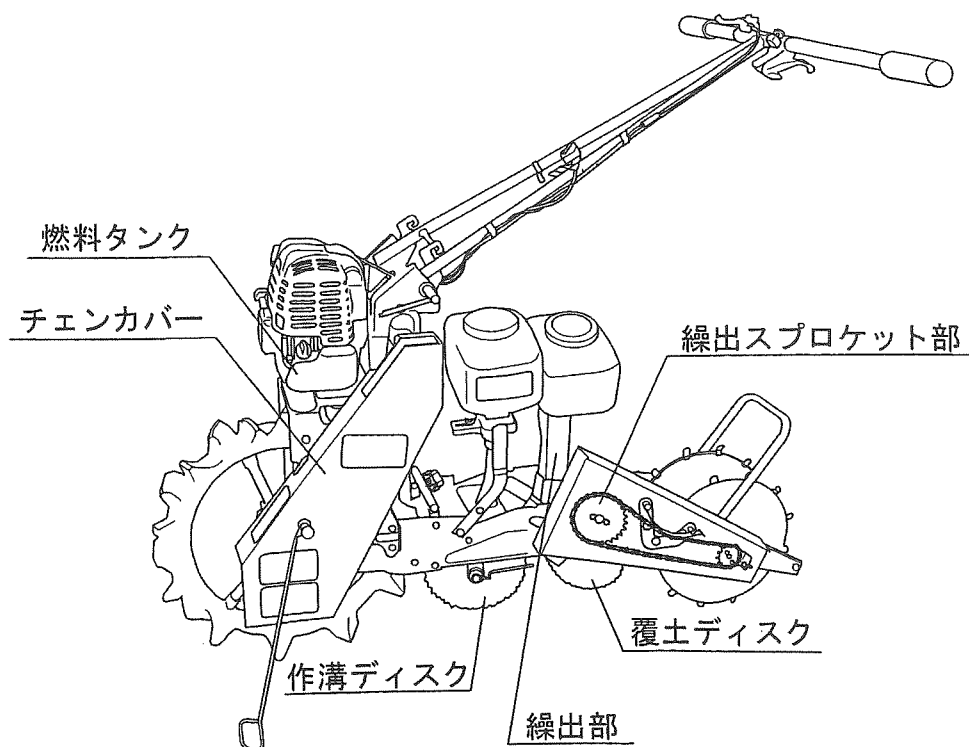
給油、注油及び点検整備する時は、次のことを守ってください。

- (1) 動力大粒播種機を平坦な広い場所に置く。
- (2) エンジンを停止する。
- (3) エンジンなどの過熱部分を十分冷やす。
- (4) くわえタバコなど火気厳禁。
- (5) 走行クラッチレバーをロックする。

以上の安全を確認して行ってください。

安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

給油・注油箇所の点検と補給



■ 燃料の補給

《燃料の取扱について》

燃料の取扱には、最善の注意が必要です。燃料には溶剤に類似した物質が含まれています。給油は換気のある部屋または野外で行ってください。燃料の蒸気を吸ったり、燃料が肌につかないようにしてください。頻繁に、または長期間接触しますと肌は乾燥し、その結果、皮膚病になる恐れがあります。また、アレルギーが起こることもあります。

目に入った場合には、直ちに浄水で洗ってください。目の不快感が消えない場合には、専門医に相談してください。

《燃料の保管期間》

燃料専用容器に入れ、日陰で風通しの良い場所に保管した場合で4週間以内に使い切る事が目安です。専門容器でないとき、栓をしないうきなど、夏場では1日で劣化する場合があります。

《燃料について》

このエンジンは4ストロークエンジンです。自動車用ガソリン(レギュラーガソリン又はプレミアムガソリン)を燃料として運転してください。

燃料のポイント

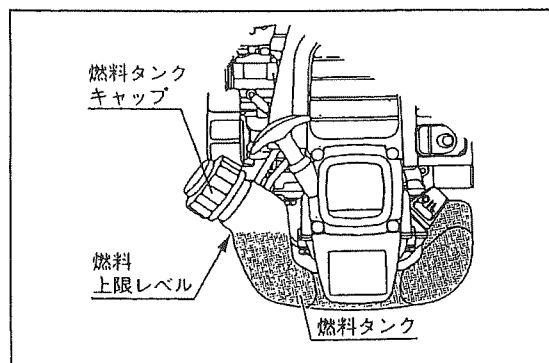
- ・ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。カーボン堆積が多くなったり、故障の原因となる恐れがあります。
- ・古い燃料を使用すると、始動不良の原因となります。

《 オイル容量 》 0.5ℓ

⚠ 危険

燃料の補給は、必ずエンジンを停止し、冷えてから行うこと。(火気厳禁)

《使用ガソリン》 自動車用ガソリン



- タンクキャップを少し緩め、燃料タンク内との気圧差を無くします。
- タンクキャップを外し、補給します(給油口いっぱいまで入れないでください)。
- タンクキャップの周りをよく拭き、異物が燃料タンク内に入るのを防いでください。
- 補給後、タンクキャップをしっかり締付けてください。

■エンジンオイルの点検・補給

注意

エンジンオイルの点検・補給は、必ずエンジンを停止し、充分冷えてから行ってください。これを怠ると、やけどをする恐れがあります。

- エンジンを水平にし、オイルゲージを外しゲージの上限・下限マークの範囲内までオイルがあるか点検してください。不足している場合(特に、オイルゲージをクランクケースに差し込んだ状態(ねじ込みしない)で、ゲージの先にしかオイルがつかない場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。(図1)

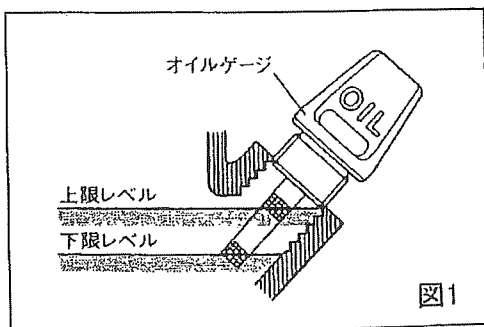
《推奨オイル》 API分類SF級以上のSAE10W-30オイル(自動車用4サイクルエンジンオイル)を交換してください。

《オイル容量》 0.08ℓ

オイル粘度の選定基準

シングル グレード	5W	10W	20W	#20	#30	#40	
マルチ グレード	10W-30		10W-40				
外気温	-20	-10	0	10	20	30	40℃
	-4	14	32	50	68	86	104°F

- ・外気温が-20℃以下および40℃以上の場合には現地に適合した粘度・品質のものをご使用ください。
- ・マルチグレードをご使用の場合、外気温が高いときオイルの消費量は増す傾向にありますのでご注意ください。



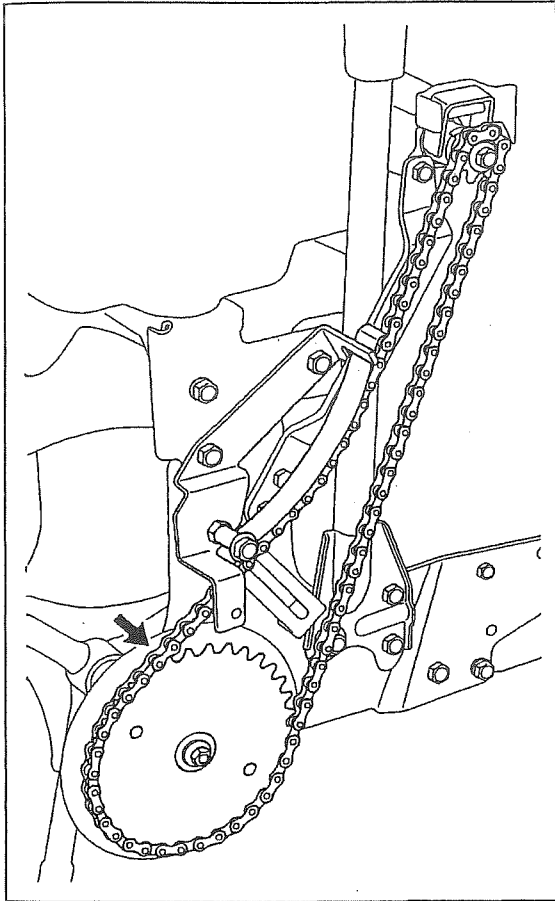
オイル交換のポイント 《オイルゲージについて》

- ・オイル給油口周りのゴミや汚れをとってからオイルゲージを外してください。
- ・取外したオイルゲージは、砂・ゴミ等がつかない場所に置いてください。もしこれらがついたまま組付けると、オイル循環不良やエンジン各所の磨耗を引き起こし、故障の原因となる恐れがあります。

■注油箇所

(1) 次の箇所はシーズン毎にグリスを注油してください。

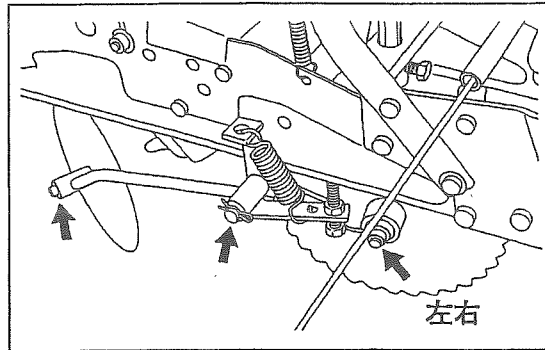
① 前輪チェン(グリス1ヶ所)



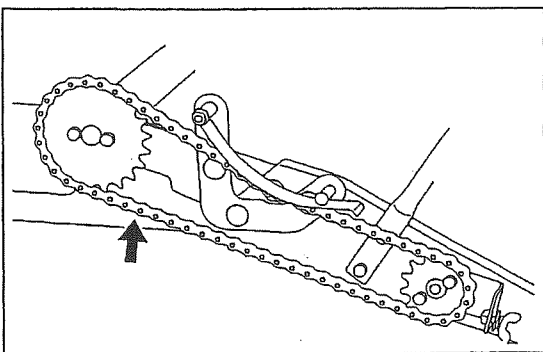
(2) 次の箇所は毎日注油してください。

① 作業ディスク(1ヶ所)

② 覆土ディスク(2ヶ所)



② 繰出スプロケットチェン(グリス1ヶ所)



運転のしかた

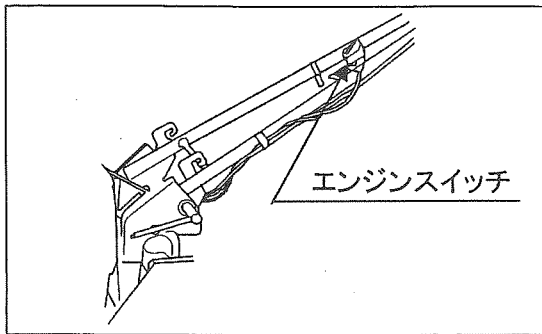
⚠ 警告

- (1) 始動する前に安全カバー類が取付けてあるか確認してください。
- (2) 室内でエンジンを始動する時は、窓を開けて換気を十分に行ってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。
- (3) エンジンを始動する時は、走行クラッチレバーを必ずロックし、周囲の安全を確認してから行ってください。怠ると急発進したりして大変危険です。
- (4) エンジンを始動する時は、周囲の人に「声」をかけ合図してください。

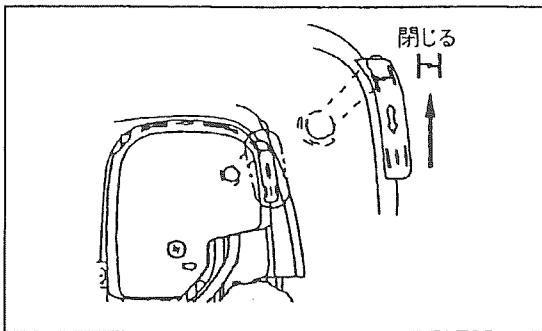
エンジンの始動と停止のしかた

始動に際しては、次の要領で行ってください。

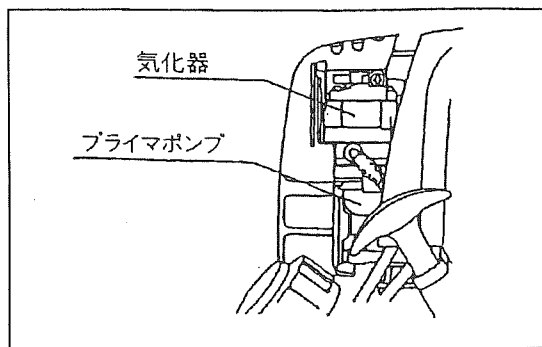
● 冷間時の始動



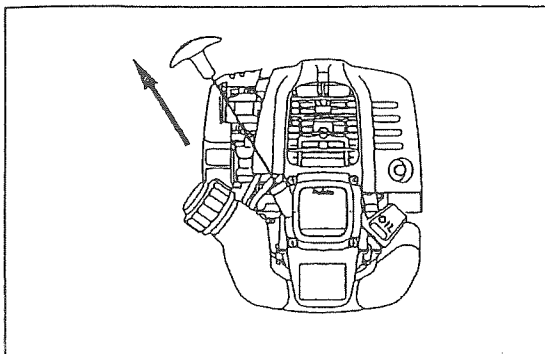
- ① アクセルはアイドル位置にしてください。
エンジンスイッチを“ON”など始動時の位置にします。



- ② チョークレバー
チョークレバーを閉じます。
チョークの開度は
・寒いときやエンジンが冷えているときは全閉にします。
・運転直後、再始動する場合は全開若しくは半開にしてください。

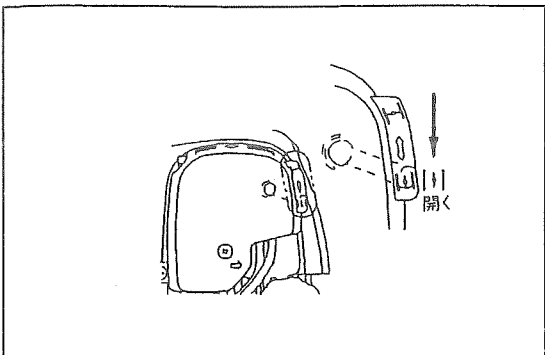


- ③ プライマポンプ
燃料がプライマポンプ内に入るまで、プライマポンプを繰り返し押してください。(7～10回程度で燃料が上がってきます) 押し過ぎても必要以上のガソリンは燃料タンクに戻りますので、問題はありません。



④リコイルスタータ

- ・始動ノブをゆっくり引いてゆくと重くなる所(圧縮点)があります。そこから始動ノブをいったん戻し、勢いよく引っ張ります。
- ・ロープは一杯に引ききらないでください。引いた始動ノブは、その位置から手放さずに戻してください。



⑤チョークレバー

- エンジンがかかりましたら、チョークレバーを開きます。
- ・チョークレバーはエンジンの調子を見ながら徐々に開き、最後には必ず全開にしてください。
- ・寒い時またはエンジンが冷えている時、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止する場合があります。ご注意ください。

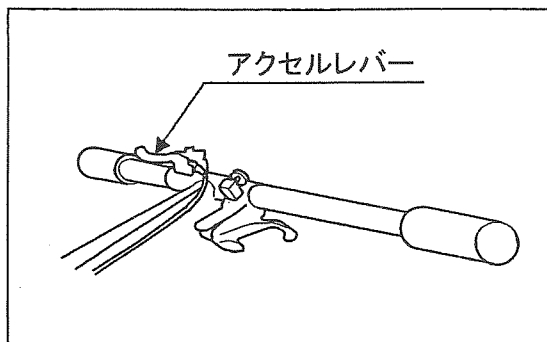
● 暖機後の始動

- ①プライマルポンプを繰り返し押します。
- ②アクセルは、アイドルの位置のままです。
- ③リコイルスタータを勢いよく引きます。

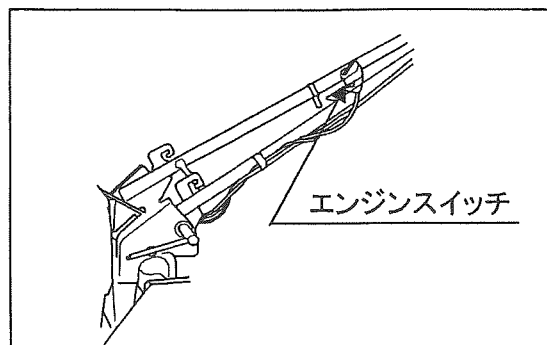
⑥暖機運転

2～3分間暖機運転を行ってください。

■ エンジンの停止方法



- ①アクセルを低速側にし、エンジン回転速度を最低速にします。



- ②エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンスイッチを停止させて下さい。

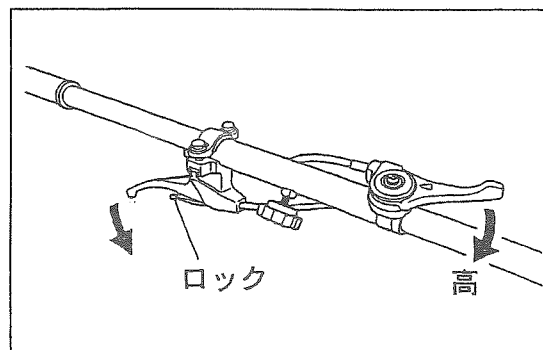
発進、停止のしかた

■ 発進のしかた

走行クラッチレバーのロックを外します。
アクセルレバーをゆっくり「高」の方へ回すと
発進します。

⚠ 注意

発進する時は、周囲の安全を確認して、
ゆっくり発進してください。
急発進すると、思わぬ事故を引き起こす
恐れがあります。

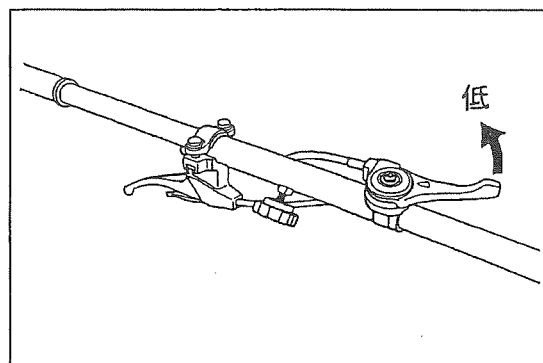


■ 停止のしかた

アクセルレバーを「低」の方へいっぱい回すと
停止します。

⚠ 注意

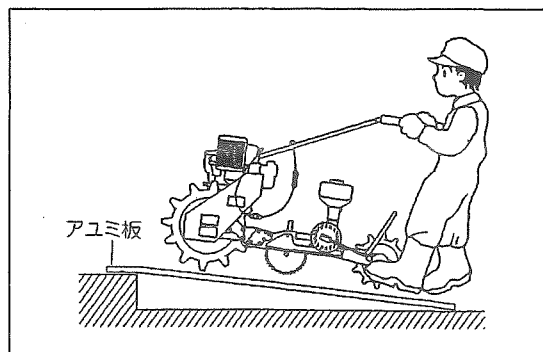
この動力大粒播種機は遠心クラッチ式の
ため、非常時には、アクセルレバーを「低」
にして停止してください。
走行クラッチレバー等での操作は慌てて
誤操作等の可能性があり、大変危険です。



移動、運搬のしかた

■ 移動のしかた

動力大粒播種機で溝や段差のある場所への移動の時は安全の為アユミ板を使って行ってください。



! 警告

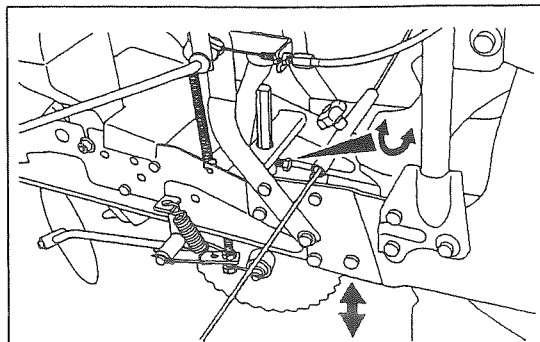
- (1) エンジン回転を落とし、ゆっくり移動してください。
- (2) 急傾斜地では、絶対に走行クラッチレバーを握らないでください。
- (3) 傾斜地では、急な旋回をしないでください。
- (4) 狭い場所や、側溝のある場所を通る時は、路肩に注意してください。

これらを怠ると、転倒・転落事故や傷害事故をおこす恐れがあります。

作業のしかた

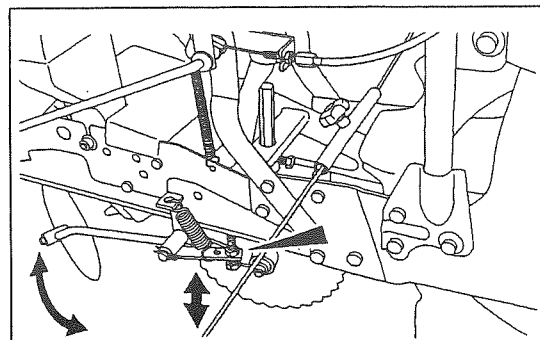
(1) 作業ディスクの調整

中央部のボルトを緩め、作溝ディスクを上下して希望の高さに合せて、ボルトを締付けてください。



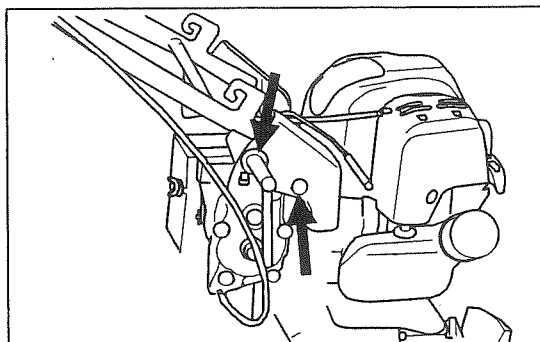
(2) 覆土ディスクの調節

ボルトを上下することにより覆土の量を決めてください。



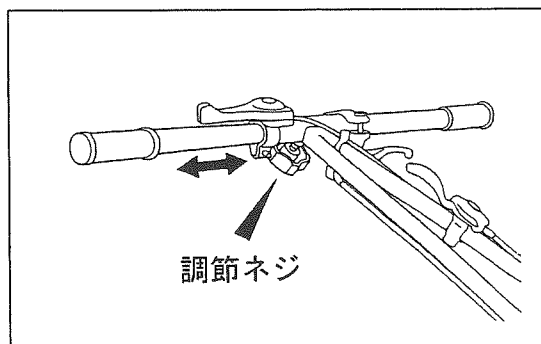
(3) ハンドル高さの調節

ハンドル上部のボルト(左右2本)を緩めます。
ハンドルを上又は下に動かして、希望の高さに合せて、ボルトを締付けてください。



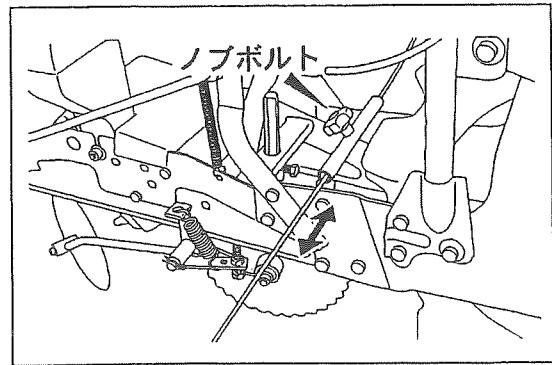
(4) ハンドルの左右調節

ハンドル中央の調節ネジを緩めて、左右に動かし希望の位置に合わせて調節ネジを締付けます。



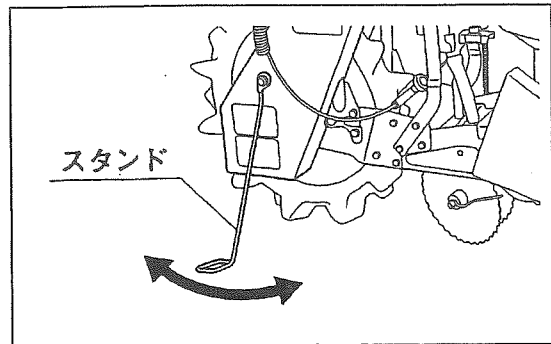
(5) マーカーの左右調整

ノブボルトを緩めマーカーを動かします。
希望の位置に合わせて、ノブボルトを締付
けてください。



(6) スタンドの調節のしかた

作業時には、スタンド位置を前又は後に
動かし使用します。



点検整備

定期的な点検整備

警告

点検整備する時は、次のことを守ってください。

- (1) 動力大粒播種機は平坦な広い場所に置く。
- (2) エンジンを停止する。
- (3) エンジンなどの過熱部分を十分冷やす。
- (4) くわえタバコなどの火気厳禁。
- (5) 適正な工具や器具を使用する。
- (6) カバーや蓋はきちんと元通りに取付ける。

以上の安全を確認して行ってください。

安全を確認しないで点検整備を行うと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■ 点検整備一覧表

○点検 △清掃 ×調整・交換

点検・調整・給油項目		点検時期			備考
		毎日	10時間	50時間	
エンジン部	エンジンオイルの交換	○	×	×	初回のみ20時間で交換 API分類SF級以上の SAE10W-30 0.08ℓ
	エアクリーナの清掃		△	△	
	点火プラグの点検・清掃			△	
	燃料フィルタの点検			○	フィルターのつまりの確認
	燃料パイプの点検	○	○		
走行部	指定注油箇所	○			オイル及びグリス
	減速ミッションオイル		○		ギヤーオイル#90
	走行クラッチワイヤー		○		

オイル交換などで出た廃油を投棄・焼却する等、みだりに処分しますと水質汚濁、土壌汚染、大気汚染につながりますので販売店やJA(農協)又は、お近くのガソリンスタンドにご相談ください。

■エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠ 注意

エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをする恐れがあります。

交換時期

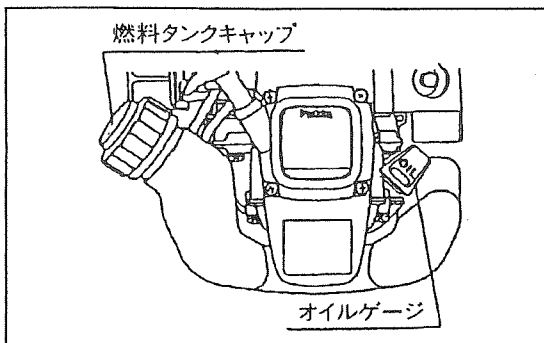
初回：20時間運転、以後：50時間運転毎

推奨オイル

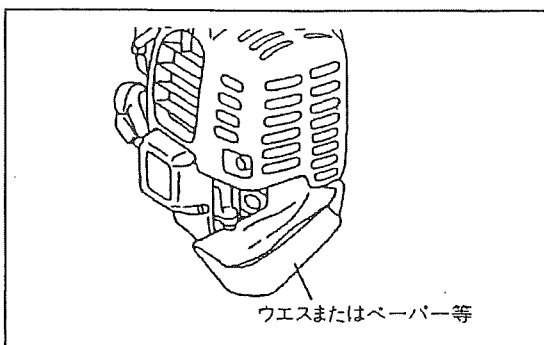
ロビンミニ4ストローク用純正オイルまたは、SAE10W-30 オイル（自動車用4サイクルエンジンオイル）をご使用ください。

交換

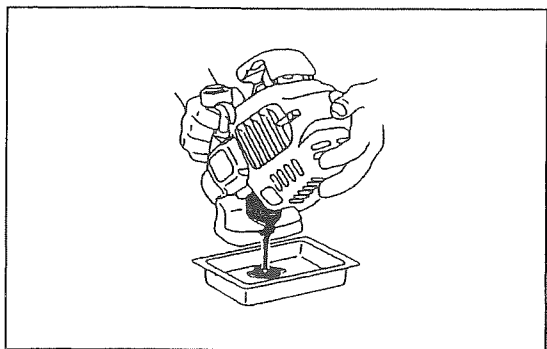
交換に際しては、次の要領で行ってください。



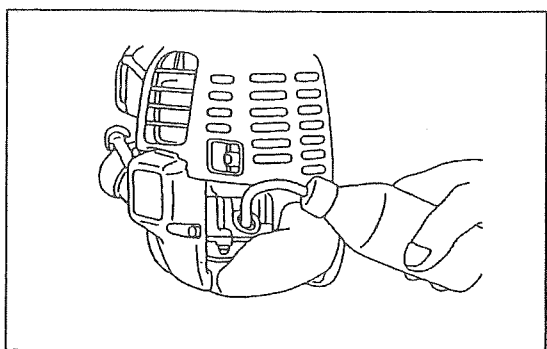
- ① タンクキャップが締付けられていることを確認します。
- ② オイルゲージを外します。
この時、オイルゲージにゴミが付かないような場所に置いてください。



- ③ ウェス又はペーパー等をオイル注入口付近に差込みます。



- ④ オイルゲージを外し、本機を注入口側に傾け、オイルを抜きます。
オイルは容器などに受けてください。



- ⑤ エンジンを水平にし、オイル注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
注入の時は、ロート又はジョッキなどでオイルを注入してください。また左図のようなボトルをオプションとして用意してあります。
- ⑥ 注入後、オイルゲージを緩まないように確実に締付けてください。締付けが緩いとオイルが漏れることがあります。

オイルに関するポイント

- ・交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買い上げになったお店にご相談のうえ処理してください。
- ・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。
(6ヶ月に1回は新しいオイルと交換)

■エアクリーナ(空気清浄器)の清掃

⚠ 危険： 火気厳禁

《清掃・点検時期》 ……ほこりの多い場所での使用は、10時間毎または1日1回清掃してください。

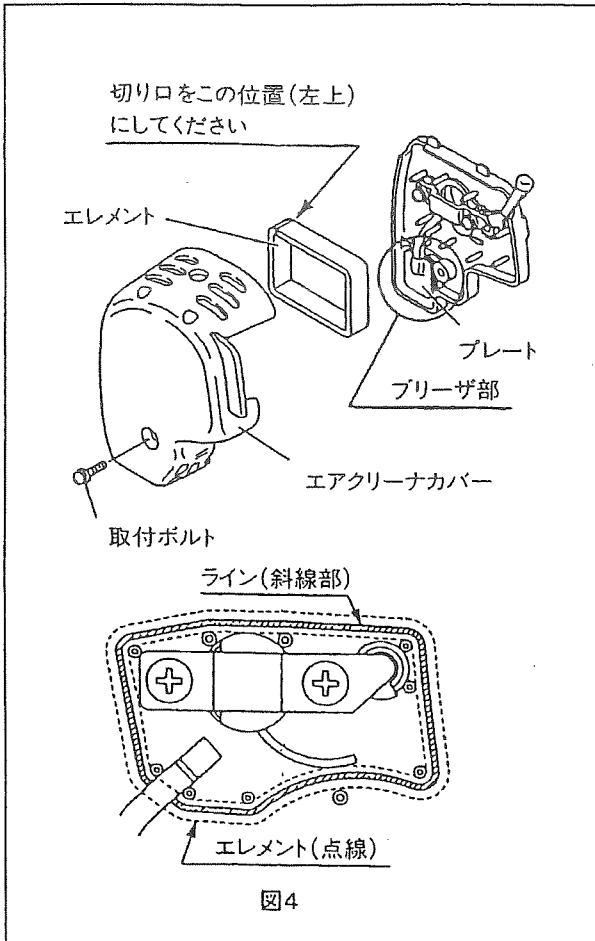


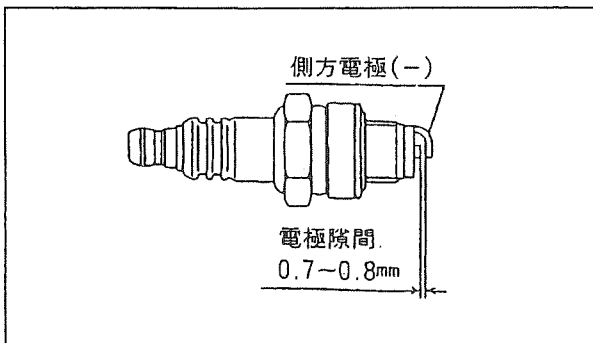
図4

- エアクリーナカバーの取付ボルトを外します。
- カバー下側を引っ張るようにして、エアクリーナカバーを外します。
- チョークレバーを全閉側にし、キャブレタに塵埃などが入るのを防ぎます。
- エレメント部分を取り外し、ぬるま湯又は水で薄めた中性洗剤で洗い、完全に乾かします。組付けは、図4のラインに合せてください。
- エアクリーナカバーとプレートのブリーザー部付近についたオイルをウエス等で拭き取ります。
- 掃除が終わり次第、クリーナカバーを取付け取付けボルトで締付けます。(取付ける場合は、上側の爪をはめ込んでから下側の爪をはめ込んでください。)

■点火プラグの点検・清掃

⚠ 注意： エンジン回転中には絶対に点火プラグの接合部に触らないこと。高圧感電の危険があります。

《清掃・点検時期》 ……6ヶ月毎または50時間運転毎

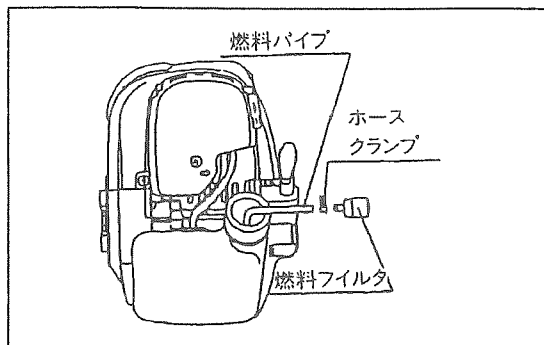


- 点火プラグの取外しや取付けには付属のボックスレンチを使ってください。
- 点火プラグの2電極間(左図参照)は0.7~0.8mmです。この間隔が広すぎたり狭すぎたりする場合には、正しく調整します。
- 点火プラグにカーボンが溜まっていたり、汚れている場合には完全に掃除するか交換します。

■燃料フィルタの清掃

⚠ 危険： 火気厳禁

《清掃・点検時期》 ……毎月 (50時間運転毎)

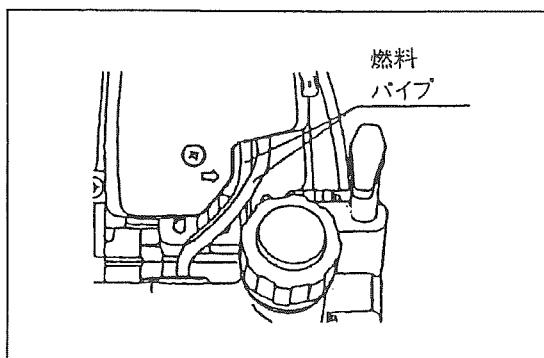


燃料タンク内の燃料パイプ先端についている燃料フィルタをパイプから引き抜き、洗浄します。
 なお、燃料フィルタの汚れがひどいものに関しては、交換してください。

■燃料パイプの点検

⚠ 危険： 火気厳禁

《清掃・点検時期》 ……毎日 (10時間運転毎)



使用頻度に関わらず、燃料パイプは毎日点検願います。燃料漏れは引火する危険があります。
 なお、点検時漏れなどがあるものは即交換してください。

■各所ボルト、ナット、ビスの交換

- 緩んだボルト、ナット等は増し締めします。
- 燃料やオイル漏れがないか点検します。
- 破損部品は新品と交換し、安全を心がけてご使用ください。

■各部の清掃

- エンジンは、いつもきれいにするように心がけてください。
- シリンダーのフィン等にゴミが詰ると、焼付きの原因にもなりますので、十分注意してください。

■ガスケット、パッキンの交換

- エンジンを分解した後、再度組付けるときは、必ずガスケット、パッキン等を新品と交換してください。

■減速ミッションオイルの給油

点検

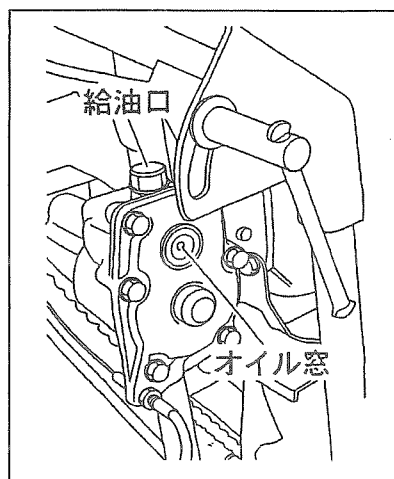
1. 機体を水平にしてオイル窓で点検します。
2. オイル窓の中央まで、オイルを補給してください。

給油

減速ミッションオイル分解時にはオイルを給油してください。ギヤーオイル 90# 0.18ℓ

⚠ 注意

- (1) オイル給油時は、エンジンを停止し十分冷えてから行ってください。
- (2) 作業中は火気厳禁。



■走行クラッチワイヤーの点検

点検

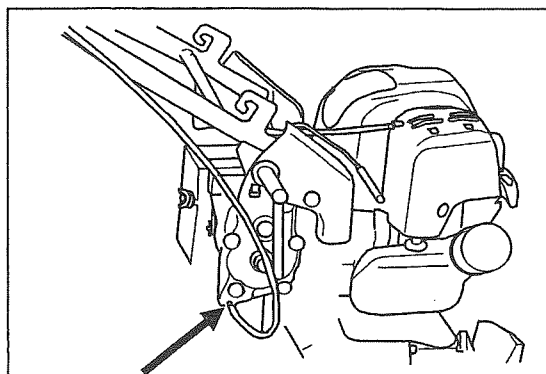
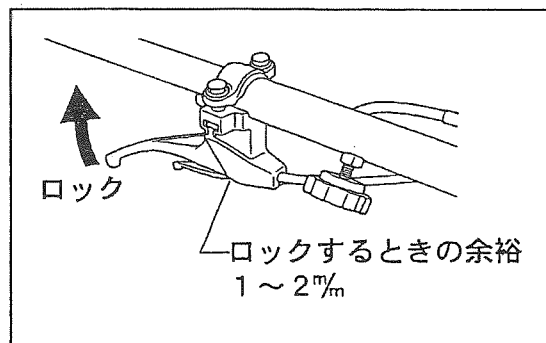
走行クラッチレバーをロックした時、走行クラッチが完全に切れていること。ガリガリと音がする場合は、完全に切れていませんので調整してください。

調整

走行クラッチレバーを握りロックレバーがロックした時の隙間1~2mm程度とします。調整は減速ケース部のアジャストネジで行ってください。

⚠ 注意

走行クラッチワイヤーの調整をする時は、必ずエンジンを停止してください。急ると急発進する恐れがあり危険です。



長期格納時の手入れ

⚠ 危険

- (1) 手入れを行う時は、必ずエンジンを停止させて行ってください。
- (2) 燃料抜取時は、火気厳禁。
- (3) 燃料がこぼれた場合はきれいに拭き取ってください。火災の原因になり大変危険です。

- (1) 各部の泥・汚れをていねいに落し乾燥させてください。
- (2) 注油箇所に注油してください。(16ページ参照)

⚠ 警告

- ・ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- ・ガソリンを抜く時は
 - エンジンを停止してください。
 - 火気を近づけないでください。
 - 換気の良い場所で行ってください。
 - ガソリンはこぼさないように抜いてください。万一こぼれた時は、布きれなどで完全に拭き取り、火災と環境に注意して処分してください。

燃料を抜く

- 燃料タンクの燃料注入口より抜き、気化器内の燃料はプライマポンプを押して抜いてください。
- この状態でエンジンを始動し、気化器内のガソリンが抜けるまで運転してください。
- 点火プラグを外し、エンジンオイルを約2cc注入し、リコイルスタータの始動ノブを静かに2~3回引き、点火プラグを締付けてください。

取扱いのポイント

- ・ガソリンは自然に劣化しますので、必ず抜いてください。
- ・オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。(6ヶ月に1回新しいオイルと交換)

清掃して格納する

- リコイルスタータの始動ノブをゆっくり引き、重たくなった所(圧縮上死点前)で止めておきます。
- 各部を油布で清掃し、カバーを掛けて湿気、埃の少ない所に**正立**で格納してください。

重要

- ・ビニールハウスなどの高温になる場所は避けてください。
- ・肥料、農薬などの近くに置かないでください。

不調時の処置

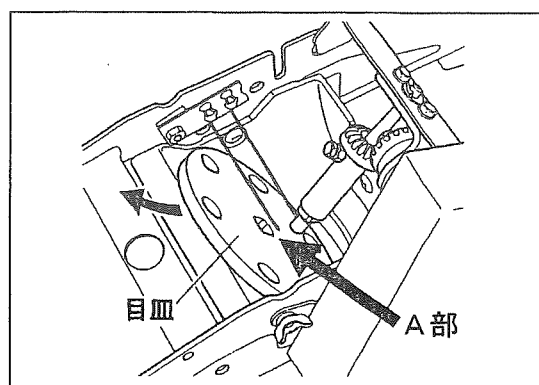
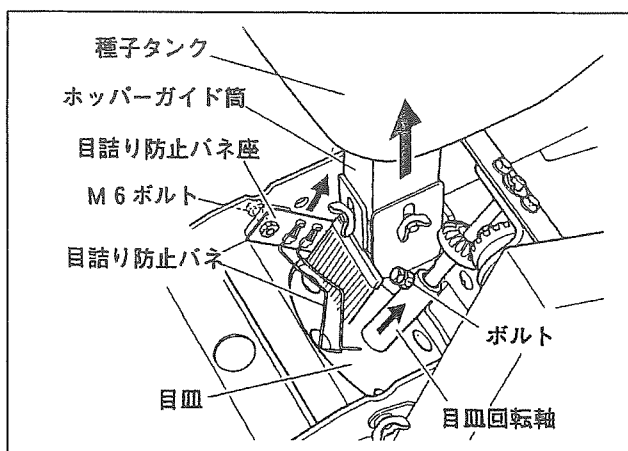
重要

不調が生じた場合は、すみやかにエンジンを停止し、販売店やJA(農協)にご相談ください。
原因調査の際必要となる場合があります。

不調内容	原因	処置
走行クラッチが切れ ない	○ 走行クラッチワイヤーが伸びている	○ 走行クラッチワイヤーの調節
エンジンが始動 しない	<ul style="list-style-type: none"> ○ 燃料が入っていない ○ 燃料コックが閉じている ○ エンジンスイッチが「OFF」になっている ○ 燃料が古い ○ キャブレター内の詰り ○ 点火していない ○ エアークリーナエレメントが水を吸い込んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 燃料を給油する ○ 燃料コックを「開」にする ○ エンジンスイッチを「ON」にする ○ 新しい燃料に入れ替える ○ 販売店に相談する ○ 点火プラグの清掃又は交換 (26ページ参照) ○ エアークリーナエレメントを清掃する

●目皿の取替え方

1. 繰出部の種子を全て取出してください。
2. 種子タンクを取外してください。
3. 目詰り防止バネ座を固定しているM6ボルトを緩め、目詰り防止バネを目皿から離してください。
4. ボルトを緩め目皿回転軸を引上げて、目皿を持ち上げる様にして取出してください。
5. 目皿一覧表を参考にして適応目皿を用意し、上記の要領で目皿、目詰り防止バネ座、種子タンクを取付けてください。

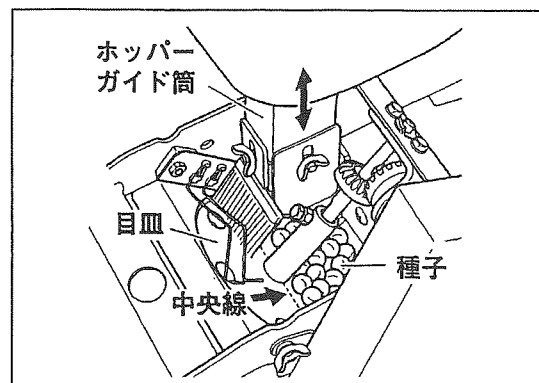


- 重要**
1. 目皿の裏に種子、ゴミ等があるまま作動させますと、故障の原因となりますから、十分に排除して目皿を取付けてください。
 2. 目皿回転軸が目皿の角穴に確実に入っていること(A部)を確認してボルトを締付けてください。
 3. 目皿は目皿番号(刻印)を上にして使用してください。

●ホッパー(種子タンク)の高さ調節

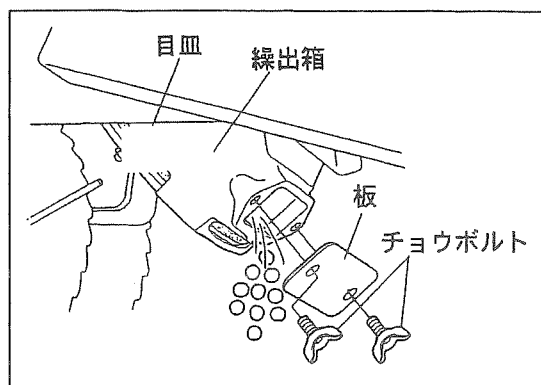
1. 目皿が回転状態の時に、種子が目皿のほぼ中央横線にくる位置でホッパーガイド筒を固定してください。

- 重要**
1. 播種前に設置輪を手で回して種子の落下を確認してください。



● 残留種子の取出し

1. 繰出箱の下にある板を外すと穴が開きますから、ここから種子を取出してください。



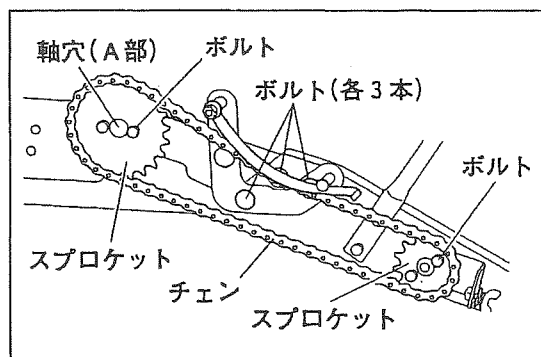
- 重要** 1. 種子取出し後は、外した板を正しく取付けてください。

注意

1. 種子に適合しない目皿を使用しますと、播種ムラが出ますから、目皿一覧表を参考にして適合する目皿を用意してください。
2. 播種速度が速いと播種ムラが出ますから、種子の繰出が確認できる程度の速さで播種してください。
3. 種子の繰出が均等に行われているか時々点検してください。
4. 逆転(引くこと)は絶対にしないでください。故障の原因となります。

● スプロケット(チェン)の取替え方

1. スプロケットカバーを取外してください。
2. スプロケットを取付けているボルトを取外してください。
3. スプロケット(チェン)一覧表を参考にして適応スプロケット・チェンを用意し、上記の要領で、取付けてください。



- 重要** 1. スプロケットとチェンはセット使用で本機に取付けてください。
2. スプロケットはスプロケット番号(刻印)を上にして使用してください。
 3. スプロケット軸穴が(A部)に確実に入らず取付けできない場合は左右フレームを固定しているボルト(各3本)を緩め、前後にフレームを動かしてスプロケット・チェン取付け後、ボルトを締めます。

注意

作業する時はエンジンを停止し、スプロケット(チェン)交換後は、必ずカバーを取付けてください。これを怠るとチェンが回り傷害事故を引き起こす原因になり、大変危険です。

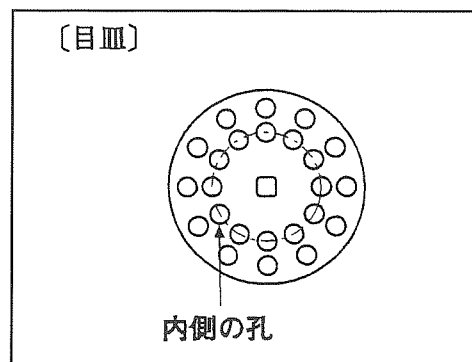
●目皿一覧表

	目皿番号	孔径(mm)	1株孔数	麦	コーン	ソルゴー	大豆	黒大豆	備考
黒大豆用	1	14	1					●	標準装備
	2	14	1					●	
大豆(コーン他用)	孔なし	—	—						標準装備
	0	10	2			●	●		
	1	11	2		●	●	●		標準装備
	2	12	2	●	●	●	●		標準装備
	3	13	2				●		標準装備
	3B	13	1	●	●				
	4B	14	1	●	●				
	5B	15	1		●				

※本機には、黒大豆用目皿番号NO.1・大豆(コーン他用)目皿番号NO.3を組込んでいます。
 ※麦・コーン・ソルゴーは、種類が多く形状により播種に影響を及ぼす可能性があります。
 ご使用は、販売店にご相談いただくか、作業前によくご確認の上ご使用ください。

重要


1. 目皿番号0、1、2、3を1孔で使用する場合はテープ等で内側の孔をふさいでください。(大豆用)
2. 孔なし目皿には孔をあける位置に目印を打ってあります。ご希望の孔を開けてご使用ください。
3. 上記の目皿番号はあくまで標準種子に合せたもので地域・種子の種類(大小の別)等により異なる場合がありますので播種前にはあらかじめその目皿が適当かどうかをご確認の上ご使用をお願い申し上げます。
4. 目皿をご注文の場合は目皿・スプロケット(チェン)一覧表を確認の上、黒大豆用目皿番号・大豆用目皿番号を指定してください。
5. 大豆(ソルゴー・コーン・麦)用目皿で18~25cmの株間で使用する場合は目皿の孔をテープ等で1列とびにふさいでください。



6. 黒大豆用目皿の孔径は14mmです。2Lサイズ以上の黒大豆を使用する場合は、販売店に相談し、目皿の孔径をドリル等で大きくしてご使用ください。(ただし、孔径は16mm以下でご使用ください。)必要以上に大きい孔をあけて作業すると、Sサイズ(7mm以下)の黒大豆は2粒落下しますので、混入には注意してください。

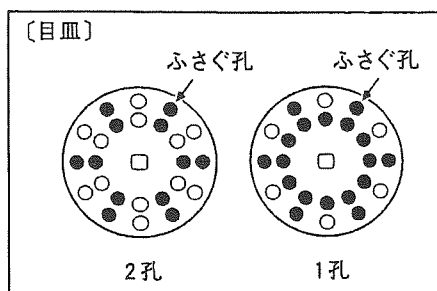
●株間の調節

1. 株間の調節はスプロケット・チェーンの交換により行いますから、表により希望の株間のスプロケットを選んでください。
2. スプロケット・チェーンを外します。
3. 上記で選んだスプロケット・チェーンを前後方向を間違わない様に取付けてください。
4. 取付け後、鎮圧輪を手で回し、チェーンがスムーズに動く確認してください。

 印が標準付属品で調節できる株間を示し、その他の株間は注文部品が必要となります。

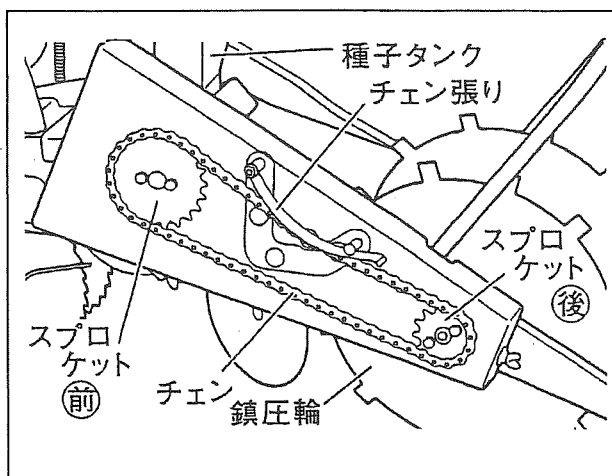
重要

1. 土質により株間が変わることがあり、確認した上でスプロケット(チェーン)・目皿を適宜選択してください。
2. スプロケットの刻印番号は歯数を示しています。
3. 出荷時の株間は黒大豆45cm、大豆(ソルゴー・コーン・麦)は18cmとなっています。
4. 大豆用の株間は18~25cmについては、目皿の孔をテープ等で1列飛びにふさいでください。
 [2孔で使用する場合 12孔]
 [1孔で使用する場合 6孔]



●スプロケット(チェーン)一覧表

	株間 cm	スプロケット歯数		チェーン L	目皿		
		前	後		No.	部 番	孔数
大豆(コーン他)用	18	22	13	64	0~3	PLE111-4107-0	0・24
	23	25	13	66		-4107-1	
	15	32	14	70		-4107-2	
	18	18	13	62		-4107-3	
	20	21	14	64	3B	-4107-3B	
	22	22	13	64	4B	-4107-4B	
	25	25	13	66	5B	-4107-5B	
黒大豆	18	18	13	62	2	PLE111-4106-2	6
	20	21	14	64			
	22	22	13	64			
	25	25	13	66			
	27	31	15	70			
	30	32	14	70			
	33	33	13	70			
大豆用	35	18	13	62	1	PLE111-4106-1	3
		36	13	72	2	PLE111-4106-2	6
大豆用	40	21	14	64	1	PLE111-4106-1	3
	45	22	13	64			
	50	25	13	66			
	55	31	15	70			
	60	32	14	70			
	65	33	13	70			
	70	36	13	72			



注意

ケガをする恐れがありますので、スプロケット(チェーン)交換後は必ずカバーを取付け、チェーン・スプロケットには手を近づけないでください。

農作業を安全に行うために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用する時の注意事項が「農作業安全基準」として定められています。

取扱説明書の内容と併せて熟読の上、事故のない楽しい農作業のためお役立てください。

第1 一般共通事項

1.適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行う作業に従事する者が農作業の安全を確保するため注意すべき事項を示すものである。

2.就業条件

(1)安全作業の心得

農業機械を使用して行う作業(以下「機械作業」という)に従事する者は、機械の操作の熟練に努め自己の安全を図るとともに、補助作業員及び他人に危害を及ぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

(2)就業者の条件

ア. 次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。

- (ア) 精神病患者
- (イ) 酒気を帯びた者
- (ウ) 若年者
- (エ) 未熟練者
- (オ) 過労・病気・薬物の影響その他の理由により、正常な運転操作ができない者

イ. 激しい作業が続く場合には特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠を取ること。
また妊娠中の者は振動を伴う機械作業に従事しないこと。

(3)特殊温湿度環境下の安全

暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を十分検討すること。

3.子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には、子供を近寄らせないように注意すること。

4.安全のための機械管理

(1)日常の点検整備

農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行い、常に機械を安全な状態に保つこと。

(2)防護装置の点検

ア. 機械作業に従事する時は、機械の操縦装置制動装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。

イ. 機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

(3)上げ装置の落下防止

作業機を上げた位置で点検整備等を行う場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無に関わらず作業機について落下防止の措置を講じること。

(4)整備工具の管理

点検整備に必要な工具を適正に管理し、正しく利用すること。

5.火災・爆発の防止

(1)引火・爆発物の取り扱い

引火または爆発の恐れのある物質の貯蔵、補給等にあたっては、その取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

(2)火災予防の措置

火災の恐れのある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等、火災防止の措置を講じること。

第2 移動機械共通事項

6. 服装及び保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装及び保護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

(1) 頭の傷害防止の措置

機械からの墜落及び落下物の恐れの大い場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

(2) 巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機もしくは動力伝導装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髮、手拭等が巻き込まれないように適正な帽子及び作業衣等を使用すること。

(3) 足の傷害及びスリップ防止の措置

機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等の恐れのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

(4) 粉塵及び有害ガスに対する措置

多量の粉塵及び有害ガスが発生する作業に当たっては、粉塵及び有害ガスによる危険防止のための適正な保護具を使用すること。

(5) 農薬に対する措置

防除作業においては、呼吸器、眼、皮膚等からの農薬による傷害防止のために適正な保護具(保護衣を含む)を使用すること。

(6) 激しい騒音に対する措置

激しい騒音の伴う作業に当たっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

(7) 保護具の取り扱い

安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

1. 適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業する機械を使用して行う作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

2. 作業前の注意事項

(1) 機械の点検整備

ア. 機械の点検整備を十分に行い、その使用に当たっては、常に安全を確認すること。

イ. 機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく、平坦である等、安全な場所で安全な方法で確実に行うこと。特に、屋内で内燃機関を運転しながら点検整備等を行う場合は、換気に注意すること。

(2) 防護装置の保全

ア. 機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。

イ. 機械の点検整備等のために防護措置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。

(3) 悪条件下における作業

土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法及び装備の選択等に注意すること。

3. 作業中の注意事項

(1) 乗車等の禁止

ア. 機械作業に際して機械には、指定の箇所以外に他人を乗せないこと。また、指定箇所においても定員以上に乗車させないこと。

イ. 非常の場合を除いて、運行または作業中の機械に飛び乗り、またはこれから飛び降りないこと。

ウ. 機械作業中は作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

(2)前方及び後方の安全確認

運行中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

(3)転落落下の防止

ア. 傾斜地における機械作業においては、機械の転倒を防ぐために速度、旋回、作業方法等に注意して運転操作を行うこと。

イ. 圃場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転倒を防ぐために、特に注意すること。

ウ. 機械の積み降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、十分注意して行うこと。

(4)傷害の防止

ア. 動力伝導装置、回転部等の危険な部分には作業中接触しないように注意すること。

イ. 刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行う場合は、傷害防止のために特に注意すること。

ウ. 作業中に土塊・石等が飛散する作業においては、飛散物によって障害が起これないように注意すること。

(5)夜間における安全

夜間作業においては、特に安全に注意し、的確な照明を行うこと。

夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

(6)作業中の点検調整等における安全措置

機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行うこと。

休憩等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下ろし、かつ安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、更に車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

4.終業後の注意事項

(1)終業後の点検整備

作業終業後は、必ず次の作業のための機械の点検整備を行うこと。

(2)作業機の取り外し

作業機の取り外しは、平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実にを行うこと。特に夜間の作業機の取り外しは、安全で適切な照明を用い、安全に留意して行うこと。

(3)機械の安全管理

作業終業後は、作業機は外し、または下ろし、機械を安定した場所に置き、かつ、完全な停止状態を保つように注意すること。

また危険と思われる機械は、格納庫に保管するか覆いを掛ける等をして安全な状態に置くこと。

諸 元

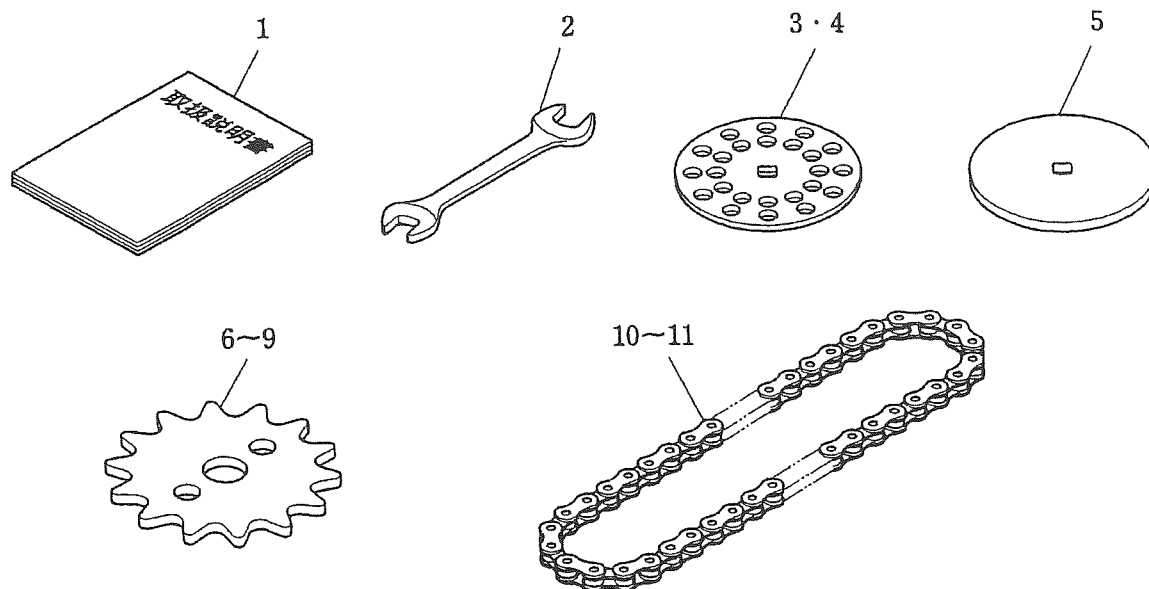
■主要諸元

名	称	みのる動力大粒播種機								
型	式	PLE112								
区	分	黒大豆	大豆(コーン・ソルゴー・麦)							
機 体 寸 法	全	長 (mm)	1230							
	全	幅 (mm)	743							
	全	高 (mm)	900							
質	量	(kg)	34							
エ ン ジ ン	型	式	名	EH025						
	種	類		空冷4サイクルガソリンエンジン						
	総	排	気	量	(CC)	24.5				
	最大出力/回転速度	(ps(kw)/rpm)		0.81(1.1)/7000						
	使	用		燃	量	自動車用無鉛ガソリン				
	燃	料	タンク	容	量	(ℓ)	0.5			
	始	動		方		式	リコイルスターター式			
作	業	速	度	(m/s)	0.34～0.68 (スリップ5%)					
播 種 機	条	数		1条						
	ホ	ッ		パ	ー	容	量	(ℓ)	4	
	株	間	40・45・50cm		11・13・18・25cm					
			スプロケット交換		スプロケット交換					
	種	子		繰		出		方	式	傾斜回転目皿式
	目	皿	NO.1	機械に組込み		—				
			NO.3	—		機械に組込み				
NO.1			—		標準装備品					
NO.2										
穴なし										
作	溝	作溝ディスクφ180円板								
覆	土	覆土ディスクφ140円板可動								

※改良のため、予告無く仕様を変更する場合があります。

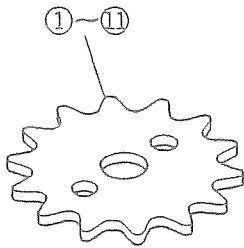
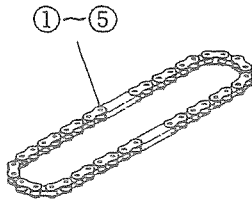
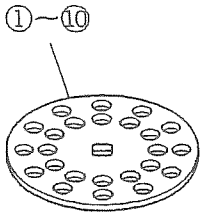
■標準付属品

NO.	部 品 名	個 数	
		黒大豆用	大豆(コーン他)用
1	取扱説明書	1	1
2	両口スパナ 10×12	1	1
3	目皿 NO.1	—	1
4	目皿 NO.2	—	1
5	目皿 穴なし	—	1
6	スプロケット 14T	1	—
7	スプロケット 21T	1	—
8	スプロケット 22T	—	1
9	スプロケット 25T	1	1
10	チェン 64L	—	1
11	チェン 66L	1	1



■ 注文部品の紹介

オプションとして下記のを準備してありますので、用途に応じてご購入の上ご利用ください。ご購入に当たっては販売店にご相談の上、ご使用ください。なお、取り付けは必ず販売店・農協(JA)で行ってください。

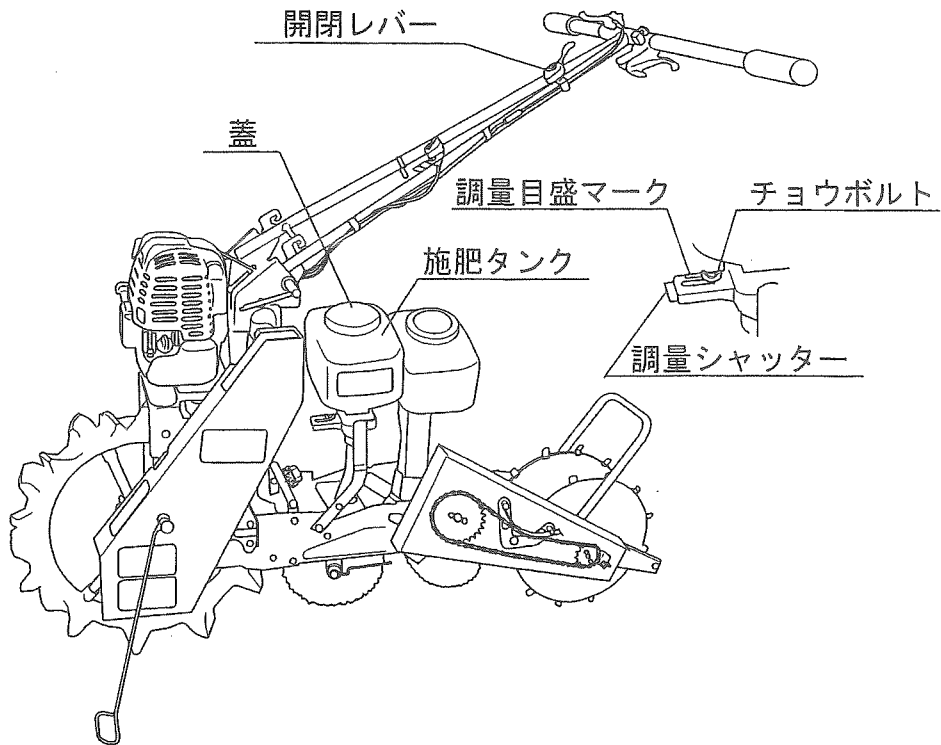
形 状	品 名	部品番号	備 考
	①スプロケット13 ②スプロケット14 ③スプロケット15 ④スプロケット18 ⑤スプロケット21 ⑥スプロケット22 ⑦スプロケット25 ⑧スプロケット31 ⑨スプロケット32 ⑩スプロケット33 ⑪スプロケット36	PLE111-5103 PLE111-5108 PLE111-5111 PLE111-5104 PLE111-5109 PLE111-5105 PLE111-5110 PLE111-5112 PLE111-5113 PLE111-5114 PLE111-5115	特殊株間用 (34ページ参照)
	①チェン62 ②チェン64 ③チェン66 ④チェン70 ⑤チェン72	CN42-62 CN42-64 CN42-66 CN42-70 CN42-72	
	①目皿(3穴) ②目皿(6穴) ③目皿(穴なし) ④目皿(φ10) ⑤目皿(φ11) ⑥目皿(φ12) ⑦目皿(φ13・2列) ⑧目皿(φ13・1列) ⑨目皿(φ14) ⑩目皿(φ15)	PLE111-4106-1 PLE111-4106-2 PLE111-4107 PLE111-4107-0 PLE111-4107-1 PLE111-4107-2 PLE111-4107-3 PLE111-4107-3B PLE111-4107-4B PLE111-4107-5B	黒大豆 大豆 (コーン・ソルゴー・麦)用

● 注文部品使用上の注意点

(1)各種スプロケット・チェン・目皿

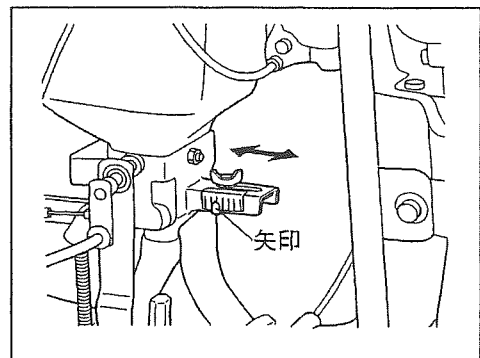
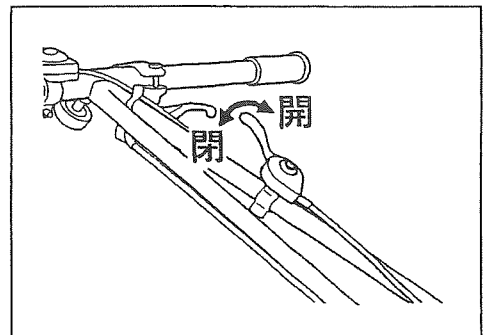
重要 ● 株間は、土質等の圃場条件により異なりますので慎重に選択してください。

施薬装置説明



■使用方法

1. 開閉レバーを「閉」にしてチョウボルトを緩め、調量シャッターの矢印を調量目盛マークの目盛に合すことにより希望する吐出量が得られます。
2. 開閉レバーを「開」にするとシャッターが開き、農薬が出ます。播種を始めると同時にレバーを「開」にし、播種が終わると同時に「閉」にします。



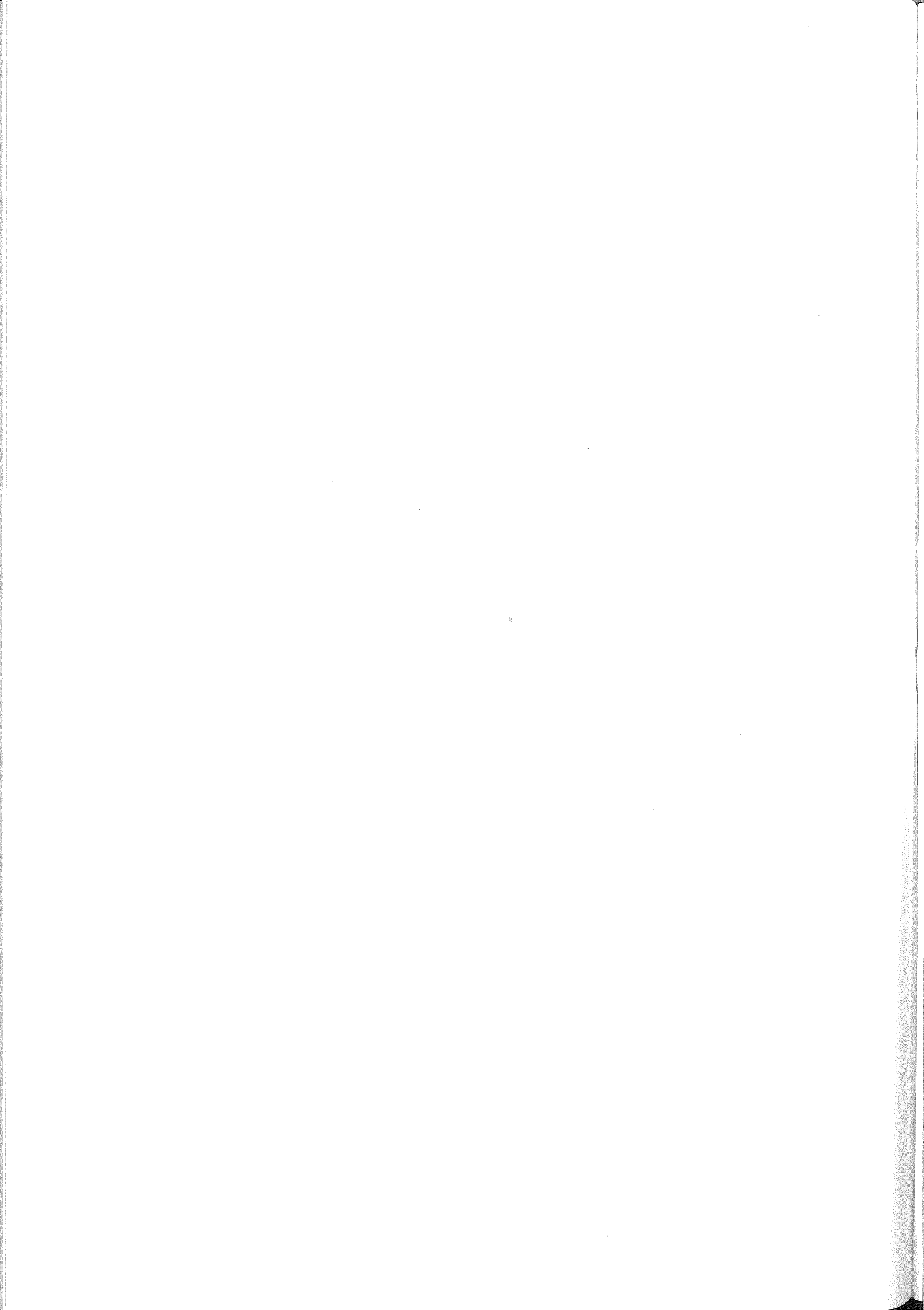
10アール当りの調量目盛

10アール 当りの吐出量(kg)	農薬の種類	ダイシストン	ダイアジノン	オルトラン	ネキトン
1		2.4	1.3	2.6	8.4
2		3.2	1.6	3.4	9.0
3		3.7	2.0	4.0	9.4
4		4.1	2.3	4.6	9.6
5		4.4	2.6	5.1	9.7
6		4.7	2.8	5.6	9.9

〔注〕上表は、歩行速度：36m/分、条間：30cmのときの調量目盛ですので、速く歩く場合には調量目盛を多く、遅く歩く場合には調量目盛を少なくしてください。量の増減は上表を参考に適宜調節してください。

■保 管

使用後は農薬を出して蓋、ホース、タンク、各作動部等についた汚れをよく拭き取るか、水洗いをして、各作動部等に注油を行い各部が錆びないように保管してください。



純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、本機に一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷しておりますので、安心してご使用いただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や、機械の寿命を短くする原因になります。



みのる 産業株式会社

本 社 工 場 〒709-0892 岡山県赤磐市下市447
TEL.(086)955-1123(代) FAX.(086)955-5520

東 京 支 店 〒337-0042 埼玉県さいたま市見沼区南中野210
TEL.(048)683-9451(代) FAX.(048)683-9452

長 野 営 業 所 〒389-1104 長野県長野市豊野町浅野582-4
TEL.(026)257-6530(代) FAX.(026)257-6531

徳 島 営 業 所 〒771-1151 徳島県徳島市応神町古川字東197
TEL.(088)641-2311(代) FAX.(088)641-2324

九 州 支 店 〒818-0066 福岡県筑紫野市大字永岡1020-1
TEL.(092)921-6006(代) FAX.(092)921-6008

ホームページ <https://www.minoru-sangyo.co.jp>